

三菱太陽光発電システム パワーモニター **エコガイドTV**

DIAMONDSOLAR

ダイヤモンドソーラー

形名

PV-DR003H

据付工事説明書

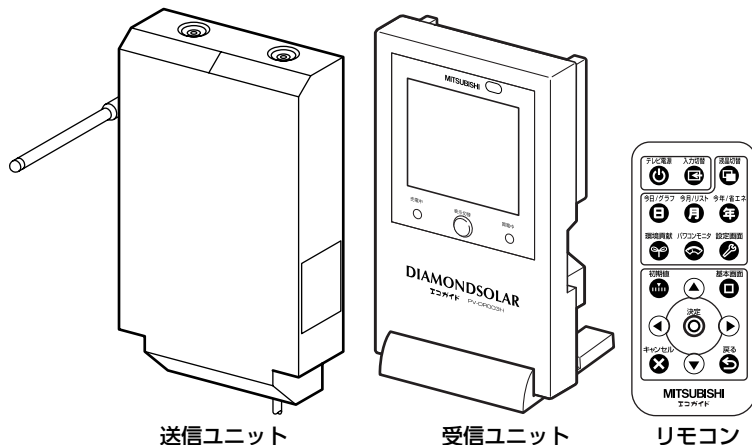
販売店・工事店様用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。

据付工事の前に、この説明書をよくお読みください。

- 据付工事は、必ず第二種電気工事士の資格を有する販売店・工事店様が実施してください。
間違った工事は、故障や事故の原因になります。
- 据付工事部品は、必ず付属品及び指定の部品を使用してください。
当社指定の部品を使用しないと、故障や事故の原因になります。
- お客様ご自身では据付けしないでください。
安全や機能の確保ができません。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。
据付工事が終わったら、この据付工事説明書とともに、お客様に必ずお渡しください。
お使いになる方がいつでも見られるところに、大切に保管してください。



適合パワーコンディショナ (2012年8月現在)

PV-PN30G	PV-PN40G	PV-PN50G
PV-PN55G	PV-PN03D	PV-PN03F
PV-PN04B2	PV-PN04B3	PV-PN04D
PV-PN04F	PV-PN05B	PV-PN05B3
PV-PN05F	PV-PN06B3	PV-PN06F
PV-PS02E	PV-PS18G	PV-PN33G
PV-PS18GA	PV-PS40J	

本機は一般家庭用です。

業務用などには使用できません。



※この製品は、電波法認証を受けた機器を内蔵しています。

もくじ

1. 安全のために必ず守ること……………2
2. 外形寸法図……………3
3. 付属品……………4
別途準備するもの……………4
4. システム概要図……………5～6
エコガイドTVと太陽光発電システムの構成例……………5～6
5. 据付場所の選定……………6
6. 据付け……………7～23
据付工事全体のながれ……………7
送信ユニットの設置と配線……………7～12
1. 送信ユニットの固定……………7
2. AC100V 電源ケーブルの接続……………7～8
3. パワーコンディショナ通信用ケーブルの接続……………8～9
4. 通信用ケーブルのパワーコンディショナへの接続……………9～10
5. 分電盤内への電源ケーブルの配線……………10
6. 電力計測用電流センサー接続ケーブルの配線……………10～12
受信ユニットの設置……………13～14
1. 送信ユニットと同じ室内での無線通信の確認……………13
2. 据付場所での無線通信の確認……………13
3. 受信ユニットの設置……………14
エコガイドTVの設定……………15～20
受信ユニットとテレビを接続する……………21
テレビ画面を見て日付・時刻を設定する場合……………22～23
7. 据付工事後の確認……………23
8. 試運転……………24
9. お客様への説明……………25
10. 受信ユニット、送信ユニットを
有線通信で使用する……………25
11. 2台目のパワーコンディショナの接続
および他社発電機の接続……………26～27
12. 三菱電機 PV-PN40G, PV-PN55G 以外の
パワーコンディショナへの接続……………28～29
13. 適合パワーコンディショナの交換……………30
14. 受信ユニットを壁掛けでご使用の場合……………31
15. リモコンのテレビ操作の設定を
メーカーに合わせて設定する……………32
16. 送信ユニット・受信ユニットの
登録 (ペアリング) 手順……………33～34
17. 主電源用漏電ブレーカーの使用負荷が
2線 (100V) のみの場合……………35～36
18. 故障かな?と思ったら……………37～39

1. 安全のために必ず守ること

● 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

 警告		 注意	
誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの		誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの	
 禁止	配線途中の電線や端子の充電部を素手で触らない 感電の原因になります。	 禁止	直接炎のあたる場所や油煙、有機溶剤のある場所には据付けない
	太陽光発電システム（住宅用）以外に使用しない 火災・けがの原因になります。		火災・変質・変形の原因になります。
	医療機関には設置しない	 浴室での使用禁止	製品同梱の付属品および指定品以外は使用しない、改造しない 故障の原因になります。
	人工呼吸器、酸素濃縮装置などの医用電気機器を在宅医療に用いる家屋内での使用は禁止する		浴室など湿気の多い場所には据付けない 感電・故障の原因になります。
 分解禁止	分解・改造をしない 火災・感電・けがの原因になります。	 指示に従い必ず行う	据付工事は製品質量に耐える壁面に確実に据付ける 落下によりけがの原因になります。
 水ぬれ禁止	製品に水をつけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因になります。		配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って第二種電気工事士の資格者が安全・確実に 行う 接続不良や誤った配線工事は感電・火災の原因になります。
 指示に従い必ず行う	交流100Vを使用する 交流100V以外を接続すると、火災・感電・故障の原因になります。		無線LAN、電子レンジ、コードレスフォン、ファクシミリなどの近くでは使用しない 電波干渉、電波障害により、通信ができなくなる原因になります。 壁や扉の材質により通信距離が短くなる場合があります。
	分電盤等のブレーカー端子台のネジを緩めた場合は、締め直し、増し締めする 火災・ショートの原因になります。		
	心臓ペースメーカーから22cm以上離して使用してください 心臓ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。		

お願い

守られない場合は製品故障または不具合の原因になります。

- 屋外または車庫、納屋など屋外に近い環境の場所には据付けないでください。
- 過度の水蒸気、油蒸気、煙、じんあい、塩分、腐食性物質などが存在する場所には据付けないでください。
- 電気配線が高温部分に触れないようにしてください。
- 電気配線が鋭い角部に触れないようにしてください。
- パワーコンディショナとの通信用ケーブルは、電力線やこの製品以外の通信線との並行配線や同一金属管内への配線は行わないでください。（通信異常の原因になります）
- 受信ユニットは、直射日光や強い照明などが当たるところに設置（据置き、壁掛け）しないでください。
- 周囲温度0～40℃、湿度30～90%以内、温度変化で結露しない屋内に据付けてください。
- 送信ユニットを脱衣所、台所に据付ける場合は、直接蒸気のかかる場所（浴室側扉の上部、洗面台の上部）には据付けないでください。
- 天井裏には据付けないでください。（通信異常の原因になります）
- パワーコンディショナを交換するときは、必ず分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「切」にしてください。

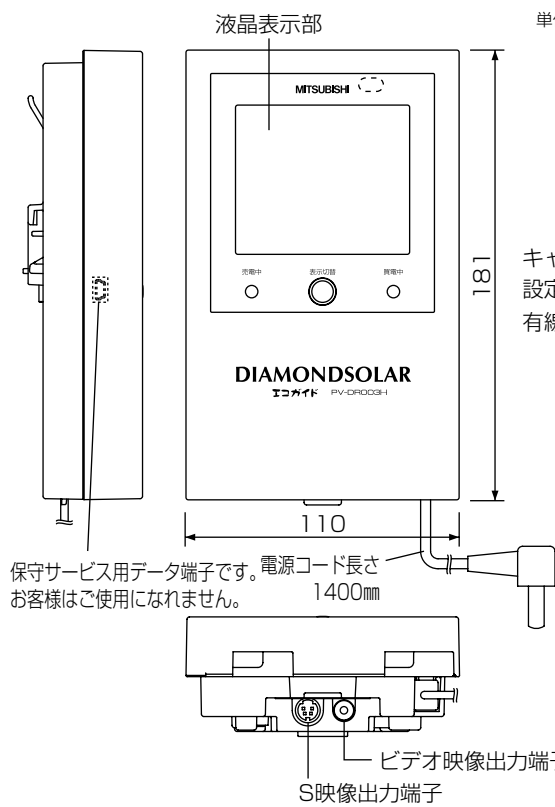
「エコウィル」は大阪ガス（株）の登録商標です。

「エコキュート」は関西電力（株）の登録商標です。

「エネファーム」は東京ガス（株）、大阪ガス（株）、新日本石油（株）の登録商標です。

2. 外形寸法図

■受信ユニット



■電源の入/切について

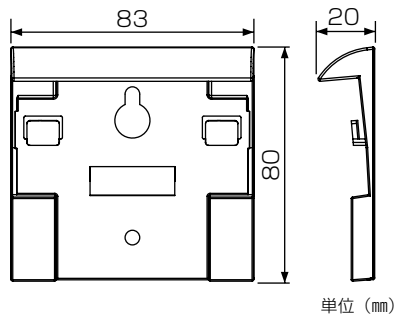
- 受信ユニットは電源プラグをコンセントに差し込むと自動的に電源「入」の状態になります。
- 送信ユニットは分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「入」にする
と自動的に電源「入」の状態になります。

【注意】 ●常時電源を「入」にしてください。
データが通信されません。

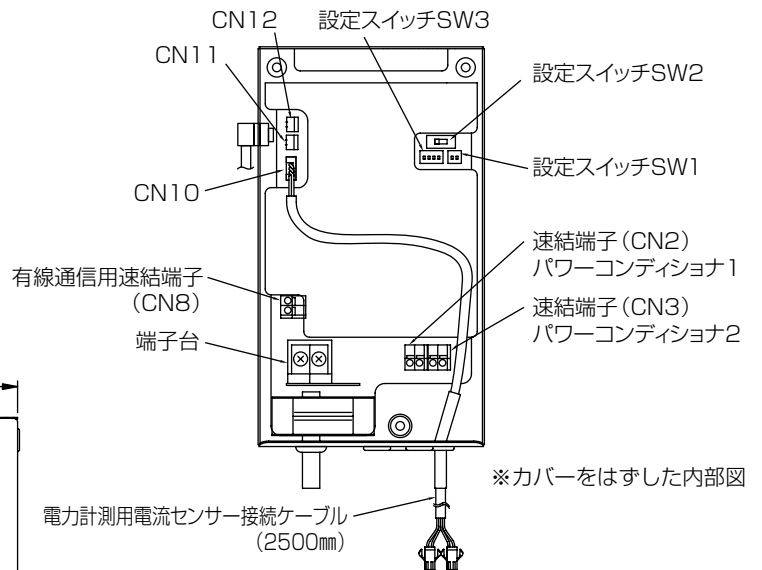
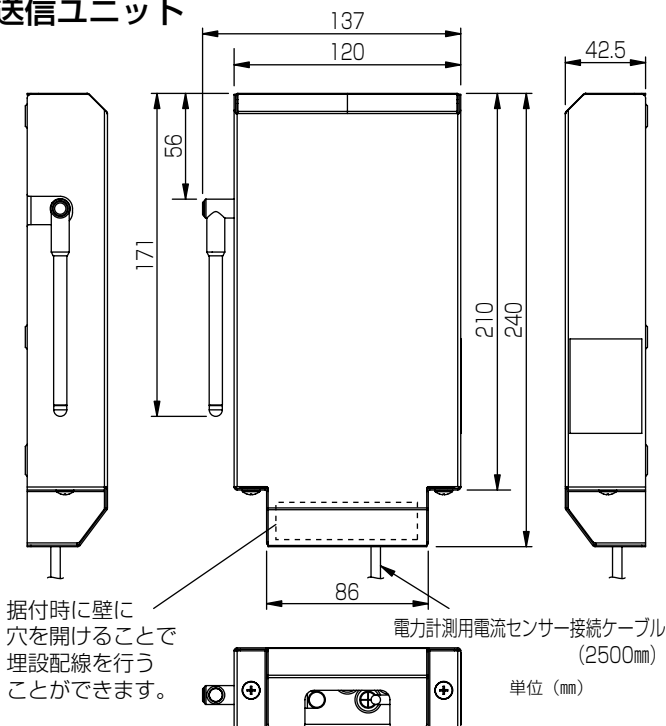
■設定スイッチの設定

スイッチ1	常にOFFのままにしてください。
スイッチ2	
スイッチ3	
スイッチ4	

■スタンド



■送信ユニット



■SW1の設定

スイッチ1	ON: 設定モード OFF: 通常動作
スイッチ2	ON: 有線通信 OFF: 無線通信

■SW2の設定

常にOFFのままにしてください。

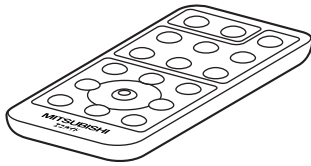
■SW3の設定

スイッチ1	常にON: パワーコンディショナ1を接続する
スイッチ2	ON: パワーコンディショナ2を接続する OFF: パワーコンディショナ2を接続しない
スイッチ3	ON: CN11に発電電力計測用電流センサーを接続する OFF: CN11に発電電力計測用電流センサーを接続しない
スイッチ4	ON: CN12に発電電力計測用電流センサーを接続する OFF: CN12に発電電力計測用電流センサーを接続しない

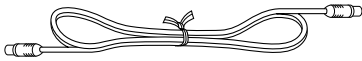
3. 付属品

開梱時に付属品がそろっていることを確認してください。

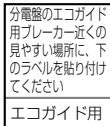
- リモコン……………1個
(電池：CR2025…1個)



- S映像ケーブル……1本(2m)
(受信ユニット ↔ テレビ)

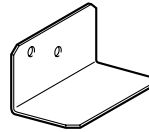


- エコガイド用ブレーカーラベル…1枚



※取扱説明書および据付工事説明書と同梱しています。

- 通信用ケーブル仕切板……………1個



(PV-PN40G、PV-PN55G、PV-PS18GA、PV-PS18G、PV-PS02E) 以外の
パワーコンディショナへの通信線接続用

- 送信ユニット用配線カバー…1個

※埋設配線を行う際に送信ユニット下側の穴をふさぎます。



- その他の付属品

品名		数量
保護チューブ	φ7×500mm ^{※1}	1
	φ6×50mm ^{※2}	1
コードバンド ^{※3}		2
コードバンド台座 ^{※4}		1
木ネジ (4.1×16mm) ^{※5}		5
十字穴付ナベネジ (4×8mm) ^{※6}		2

- ※1：接続するパワーコンディショナ側に取付けます。
- ※2：通信用ケーブルの保護用として同梱されています。
- ※3：送信ユニット内のケーブル結束用として同梱されています。
- ※4：有線通信用ケーブルの固定用として同梱されています。
- ※5：送信ユニットおよびスタンドの固定用として同梱されています。
- ※6：通信用ケーブル仕切板の固定用として同梱されています。

別途準備するもの

- 分岐ブレーカー：15～20A (分電盤に空き分岐ブレーカーが無い場合)
- ボード用アンカー (石膏ボードなど壁材が弱い場合の補強)
- テレビ
- シールパテ (埋設配線のすき間を埋めるのに使用)

■ ケーブル類

ケーブル		種類
パワーコンディショナ通信用ケーブル	P8	PVC線 2芯 50m以内
有線通信用ケーブル(有線通信を行う場合)	P25	(単線φ0.65～φ1.2)
AC100V配線用ケーブル(送信ユニット用)	P7	VVF 2芯単線φ1.6
ビデオ映像ケーブル	P21	S映像が利用できない場合 3m以内

■ 電力計測用電流センサー (標準使用) **P10** (センサー2個入)

取付電線外径	形名
φ10未満	PV-DC10A (別売)
φ16未満	PV-DC16A (別売)
φ24未満	PV-DC24A (別売)

送信ユニットに接続されている電力計測用電流センサー接続ケーブルに接続してください。

■ 発電電力計測用電流センサー (他社発電機用) (センサー1個+接続ケーブル全長2.5m 1本入)

取付電線外径	形名
φ10未満	PV-DC01 (別売)

最大25mまで延長可能

「電流センサー用接続ケーブルの延長」**P12**

※取付電線外径がφ10以上の場合は、PV-DC16AまたはPV-PC24Aを併せて用意してください。

■ 中継機

形名：PV-DRTO2

送信ユニットと受信ユニット間の電波が直接届かない場合。設置は最大で5台です。

■ パワーコンディショナの台数とケーブル類の手配について

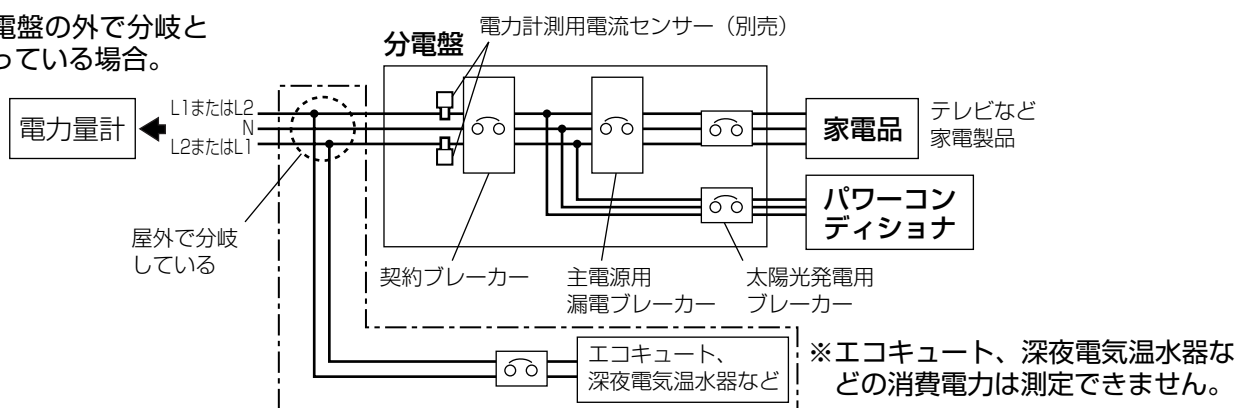
	パワーコンディショナ	パワーコンディショナ通信用ケーブル	AC100V配線用ケーブル	電力計測用電流センサー(2個入)	発電電力計測用電流センサー
他社発電機	適合パワーコンディショナ	1	1	1	—
		2			—
	適合外パワーコンディショナ	1			1
		2			1
	外部発電機(エコウィル、エネファームなど)	1	—	—	2

- 適合パワーコンディショナとは、表紙の適合パワーコンディショナのことです。
 - 適合外パワーコンディショナとは、表紙の適合パワーコンディショナ以外のパワーコンディショナのことです。
 - 適合パワーコンディショナ3台目、4台目を接続する際は、適合外パワーコンディショナとして接続します。
- ※適合外パワーコンディショナと外部発電機(エコウィル、エネファームなど)を組合わせて使用することはできません。

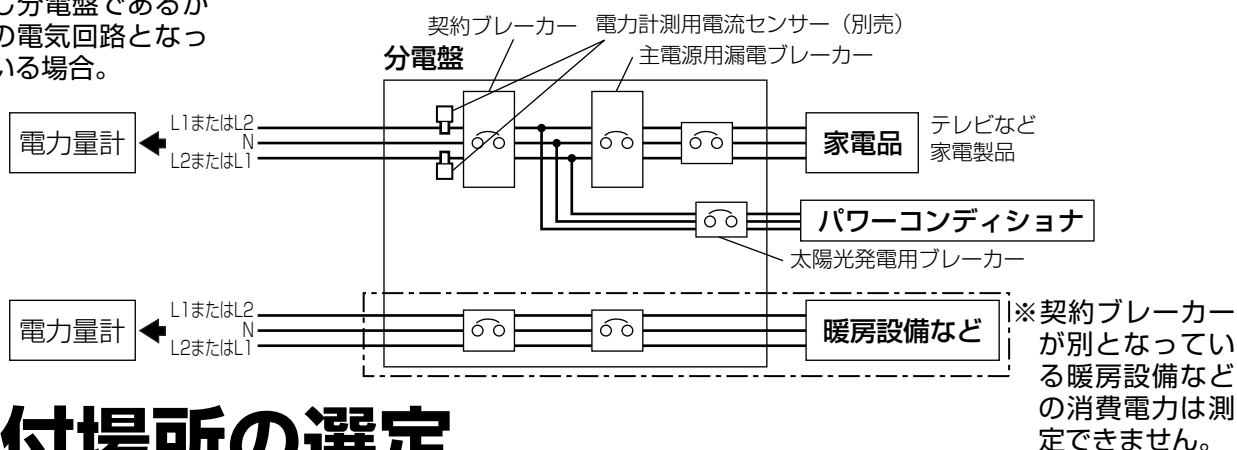
4. システム概要図 つづき

配線によっては計測できる電力量に制限があります。

配線例1 ■分電盤の外で分岐と なっている場合。

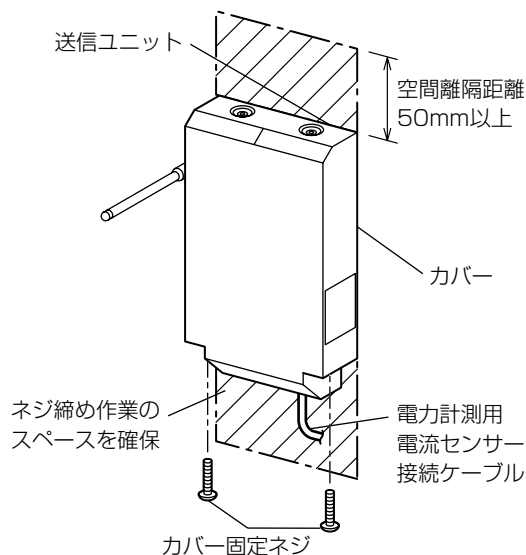


配線例2 ■同じ分電盤であるが 別の電気回路となっ ている場合。



5. 据付場所の選定

安全にご使用いただくため、法規に沿って第二種電気工事士の資格者が行ってください。設置場所はお客さんと相談の上選定してください。



■ 送信ユニットは、下記の場所に設置してください。

- 送信ユニットは分電盤の近くに設置してください。電力計測用電流センサー接続ケーブルの長さは2.5mです。本ケーブルが届く範囲に送信ユニットを設置してください。やむを得ず送信ユニットを分電盤の近くに設置できない場合は、12ページの「電力計測用電流センサー接続ケーブルの延長をする場合」により最大25mまで延長できます。
- 受信ユニットと有線で接続する場合は、各ケーブルの長さに注意して設置場所を決定してください。(最大50mまで)
- 適合パワーコンディショナから50m以内の場所に設置してください。

ご注意

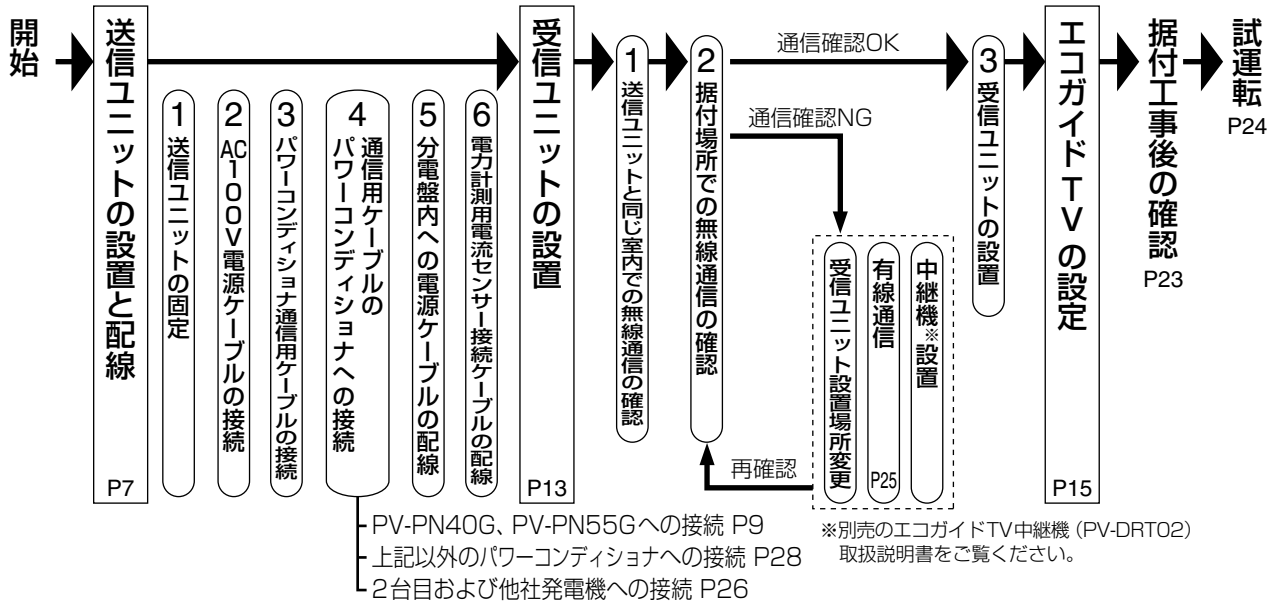
- 送信ユニットを設置する壁は製品質量1kgに耐えられる強度があることを確認してください。
- 左図を参照し、電力計測用電流センサー接続ケーブルが送信ユニットの下側から出るように設置してください。
- 送信ユニットはユニットバス上や、天井裏などの密閉された場所に設置しないでください。送信ユニットと受信ユニット間の無線通信距離が短くなり、無線通信が安定しなくなります。
- 屋外または車庫や納屋など、屋外と同程度の場所に設置しないでください。
- 周辺に金属や障害物などが無い場所に設置してください。

■ 受信ユニットの設置場所について下記の項目を確認してください。

- 受信ユニットの設置前に無線通信の確認を必ず行ってください。
- 受信ユニットからテレビまでS映像(またはビデオ映像)ケーブルが届く距離にあるか、電源用コンセントまで電源コードが届く距離に設置してください。
- 受信ユニットは直射日光が当たるところには設置(据置き、壁掛け)しないでください。リモコン信号が正しく受信できないおそれがあります。

6. 据付け

据付工事全体のながれ



送信ユニットの設置と配線

⚠ 注意

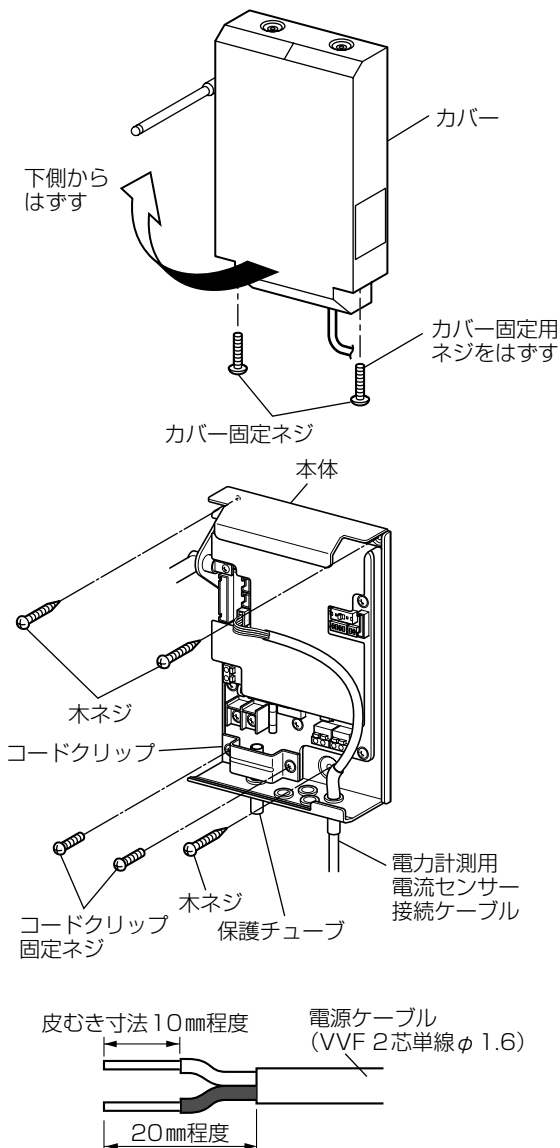
- 電源電線の接続は確実に
接続部が過熱して発火の原因になります。
- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って第二種電気工事士の資格者が安全・確実に
接続不良や誤った配線工事は感電・火災の原因になります。

1. 送信ユニットの固定

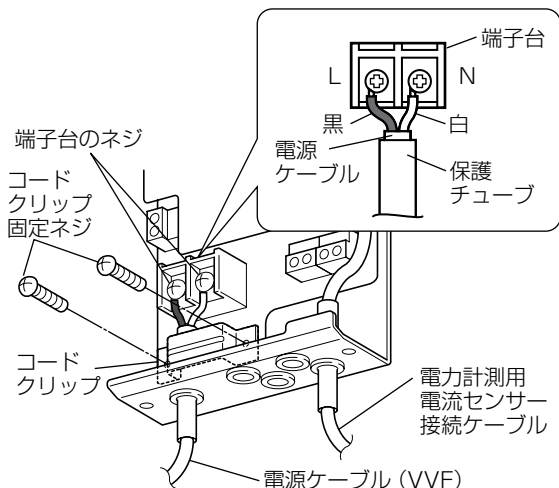
- 1 送信ユニット下面のカバー固定ネジ2本をはずし、カバーをはずす
 - カバーを下側からはずしてください。
 - 2 本体を付属の木ネジ(4.1 × 16 mm)3本で壁に固定する
 - 送信ユニットは電力計測用電流センサー接続ケーブルが下側となるように、水平に固定してください。
- で注意**
- 木ネジで固定する際、木くずなどが送信ユニット内部に残らないように取り除いてください。故障の原因になります。
 - 石膏ボードなど壁材が弱い場合は、ボード用アンカーなどで補強してください。

2.AC100V 電源ケーブルの接続

- 1 送信ユニットの基板上的コードクリップを固定しているコードクリップ固定ネジ2本をはずし、コードクリップをはずす
 - 保護チューブははずさないでください。
 - AC200Vには接続しないでください。故障や事故の原因になります。
- 2 電源ケーブル(VVF 2芯単線φ 1.6)の皮むきをする
 - 左図を参照してください。



6.据付け つづき



3 電源ケーブルを送信ユニット左側の保護チューブに通し、端子台のネジ2本で固定する（ネジ締付けトルク 1.4 ~ 1.8N・m）

- 白色のケーブルをN側、黒色のケーブルをL側に接続してください。

4 保護チューブに通した電源ケーブルをコードクリップでおさえ、コードクリップ固定ネジ2本で固定する

- 電源ケーブルは引っぱっても動かないように確実に固定してください。
- コードクリップは保護チューブおよび電源ケーブルのシースの上から押さえつけてください。

3. パワーコンディショナ通信用ケーブルの接続

適合パワーコンディショナが1台の時の接続についての説明です。2台目の適合パワーコンディショナおよび他社発電機を接続する場合は26～27ページを参照ください。

1 付属の保護チューブ(φ6×50mm)にパワーコンディショナ通信用ケーブル(PVC線2芯)を通す

2 パワーコンディショナ通信用ケーブル(PVC線2芯)を保護チューブごと送信ユニット下面のブッシュに通す

- 左図を参照してください。

3 皮むきしたパワーコンディショナ通信用ケーブル(PVC線2芯)を速結端子(CN2)に接続する

- 極性はありませんので、どちらに接続しても問題ありません。
- 速結端子にケーブルを接続する時は、速結端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。

ご注意 ● 各ケーブルの差し込み状態を確認してください。差し込みが不十分な場合、通信異常発生の原因になります。

4 パワーコンディショナ通信用ケーブルと電力計測用電流センサー接続ケーブルを、送信ユニットの内側で付属のコードバンドを使用して束ねる

- 左図を参照してください。

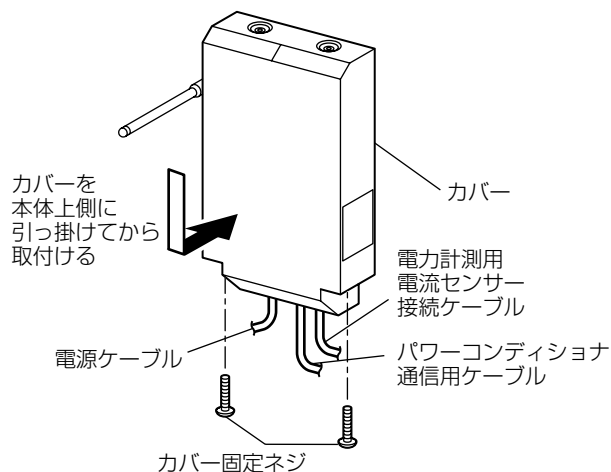
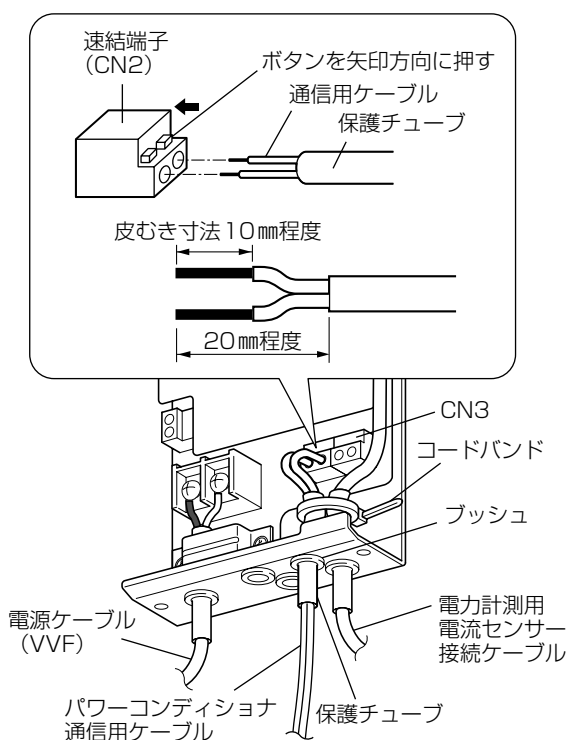
5 電源ケーブル、電流センサー用接続ケーブル、パワーコンディショナ通信用ケーブルが確実に接続されていることを確認し、はずしておいたカバー固定ネジ2本で送信ユニットのカバーを取付ける

- カバー上側を本体に引っ掛けてからカバーを取付けてください。
- ケーブルのかみ込みなどがなく確認してください。

■ 通信用ケーブルのパワーコンディショナへの接続 P9

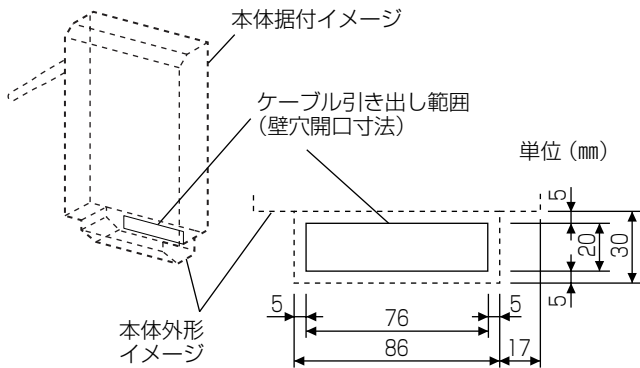
■ 分電盤内への電源ケーブルの配線 P10

■ 電力計測用電流センサー接続ケーブルの配線 P10～12

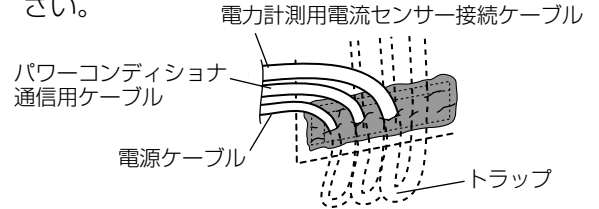


埋設配線をする場合

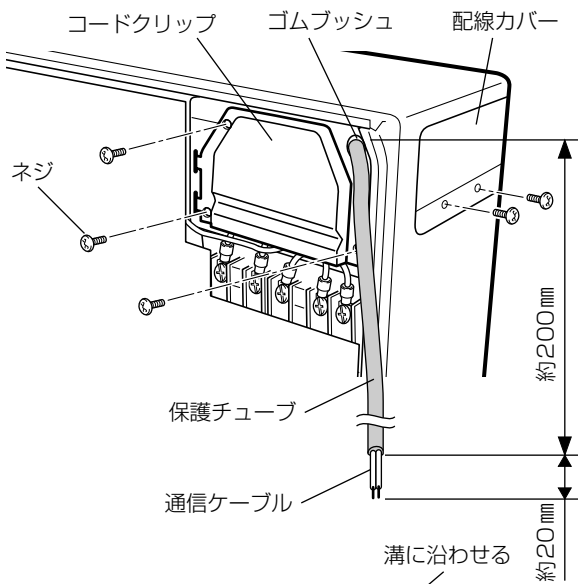
下図寸法を参照して壁穴を開け、壁内にトラップをもうけて各ケーブルを引き込むことで埋設配線を行うことができます。壁から外気が進入すると結露をおこし故障につながる恐れがありますので、各配線を壁から引き出したら、配線口のすき間をシールパテで必ずふさいでください。



【注意】 ●埋設配線を行う場合には壁内の結露水が製品内部に浸入しないようにトラップをもうけてください。



埋設配線で据付けた場合は、付属の送信ユニット用配線カバーを、カバーの露出配線用穴（送信ユニット下側の穴）に取付けて穴をふさいでください。



4. 通信用ケーブルの パワーコンディショナへの接続

適合パワーコンディショナ PV-PN40G、PV-PN55G への接続をする場合

適合パワーコンディショナ PV-PN40G、PV-PN55G 以外のパワーコンディショナへの接続をする場合 **P28**

2台目や他社発電機への接続をする場合 **P26**

【注意】 ●通信用ケーブルを接続する際に、パテを触った場合、必ず元通りに配線口を埋め戻してください。

■ 接続前の確認

●接続箱の全ての太陽電池開閉器が「OFF」、パワーコンディショナの直流側開閉器が「切」、太陽光発電用ブレーカーが「OFF」、すでに分電盤のエコガイド用ブレーカーが接続されている場合は「OFF」になっていることを確認してください。

■ 接続前の作業

●パワーコンディショナのフロントパネルと配線カバー、コードクリップをはずしてください。

■ 通信用ケーブルの接続

1 コードクリップのゴムブッシュに、本機に付属の保護チューブ（φ7×500mm）を通す

●保護チューブが通しにくい時はゴムブッシュをコードクリップからはずしてから、ゴムブッシュに保護チューブを通した後、ゴムブッシュをコードクリップに取付けてください。

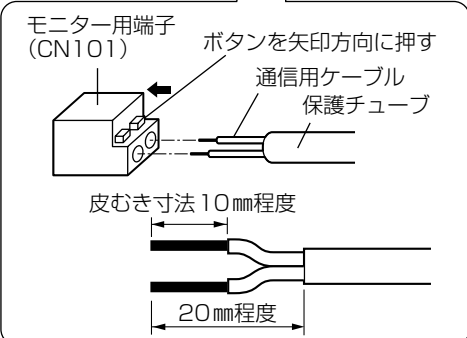
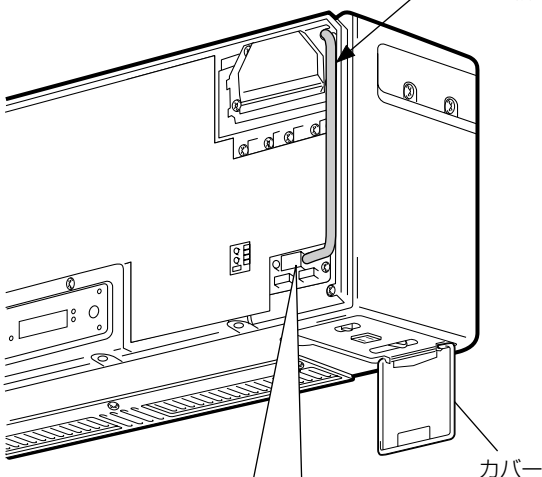
●パワーコンディショナ内部側への保護チューブの長さを、約200mmになるよう調整してください。

2 保護チューブに皮むきした通信用ケーブルを通す

3 保護チューブに通した通信用ケーブルをモニター用端子（CN101）に接続する

●極性はありませんので、どちらに接続しても問題ありません。
●モニター用端子にケーブルを接続する時は、モニター用端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。

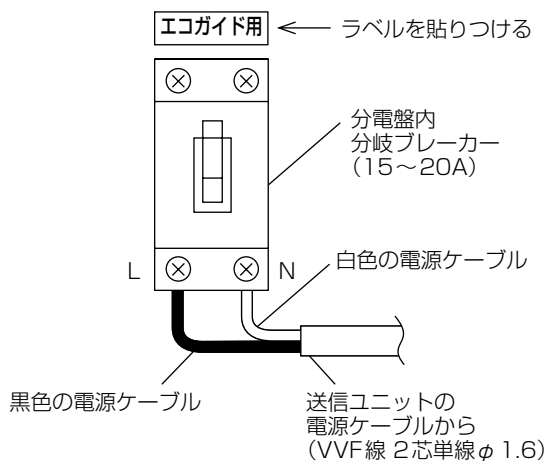
【注意】 ●各ケーブルの差し込み状態を確認してください。差し込みが不十分の場合、通信異常発生の原因になります。



6. 据付け つづき

警告

交流 100V を使用する
交流 100V 以外を接続すると、火災・感電・故障の原因になります。



4 接続後はパワーコンディショナのコードクリップをネジ3本で取付ける

- 保護チューブに通した通信用ケーブルがコードクリップに向かって右端の溝に沿わせてください。

5 パワーコンディショナのフロントパネルと配線カバーをもとどおりに取付ける

- 製品外の屋内配線は、通信用ケーブルと交流側ケーブルとの間隔を 300 mm 以上離して配線してください。

5. 分電盤内への電源ケーブルの配線

注意

- 電源電線の接続は確実に行う
接続部が過熱して発火する原因になります。
- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って第二種電気工事士の資格者が安全・確実に行う
接続不良や誤った配線工事は感電・火災の原因になります。

分電盤内の空き分岐ブレーカーに、送信ユニットの端子台からの電源ケーブル (VVF 2芯単線φ 1.6) を接続する

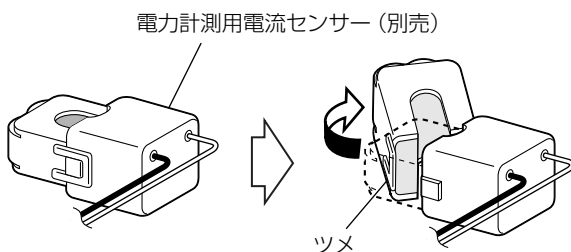
- 分電盤内に空き分岐ブレーカーがない場合は、分岐ブレーカー (15~20A) を増設してください。
- 白色の電源ケーブルを分岐ブレーカーの中性線 (N) 側、黒色の電源ケーブルを分岐ブレーカーのL側に接続してください。
- 送信ユニットを接続した分岐ブレーカー近くの見やすい位置に同梱の「エコガイド用ブレーカーラベル」から「エコガイド用」をはがして貼り付けてください。
(他のブレーカーと区別するため)

6. 電力計測用電流センサー 接続ケーブルの配線

1 電力計測用電流センサーランプ部のツメをはずして開く

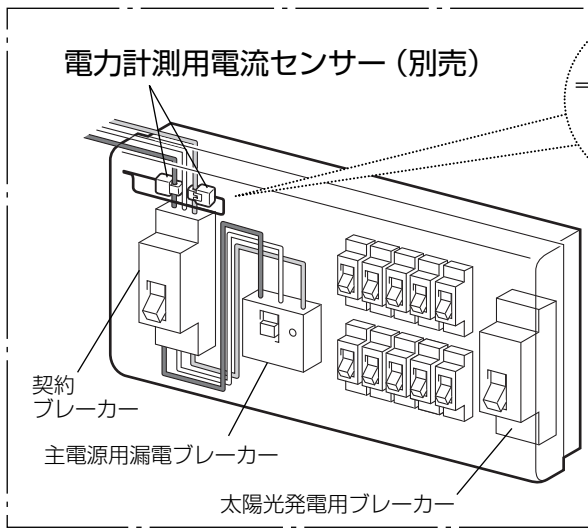
ご注意

- 電力計測用電流センサーは取付ける電線の外径より大きいものを選定してください。 **P4**
- 電力計測用電流センサーは主電源用漏電ブレーカーおよび太陽光発電用ブレーカーの接続点よりも必ず系統電源側の電圧側線に取付けてください。
(取付位置は次ページを参照してください)
- 太い電線や曲がった部分に無理に取付けると、正しく電流を検出できなくなります。
- 電力計測用電流センサーに異物がはさまっていないか確認してください。



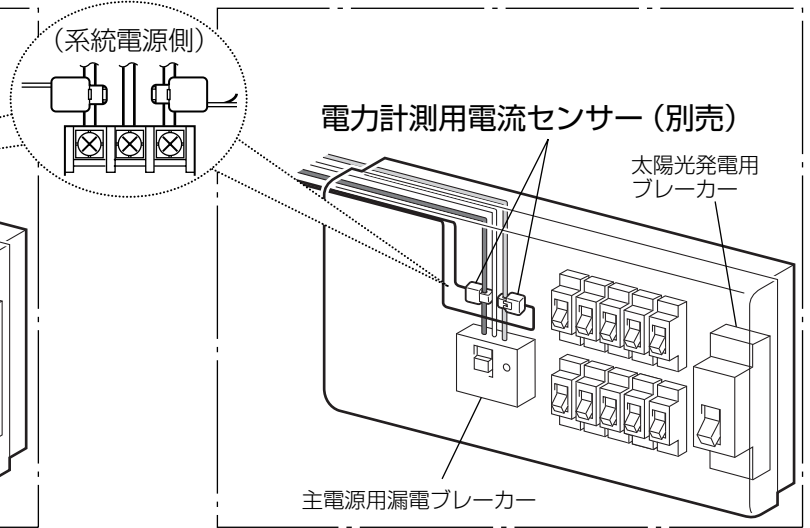
取付位置 A

契約ブレーカーがある分電盤へ電力計測用電流センサー（別売）を取付ける場合。



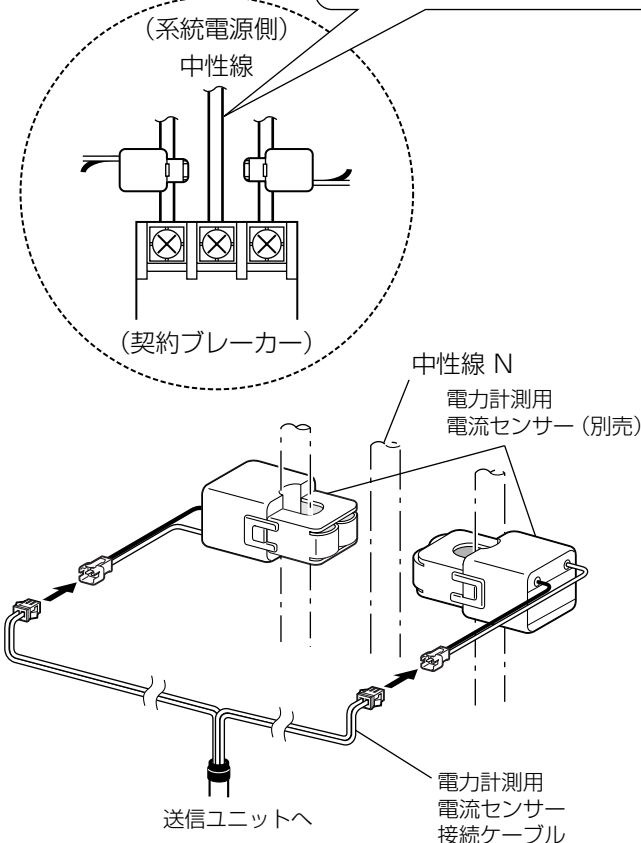
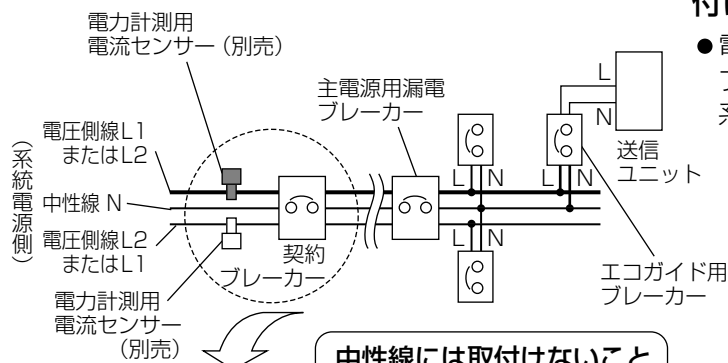
取付位置 B

契約ブレーカーが無い分電盤へ電力計測用電流センサー（別売）を取付ける場合。



2 分電盤内の電圧側線に電力計測用電流センサーを1個取付ける（中性線には取付けないでください）

- 電力計測用電流センサー（2個）の取付位置は、全ての分岐ブレーカーと、太陽光発電用ブレーカーの接続点よりも必ず系統電源側であることを確認してください。



3 残りの電力計測用電流センサーをもう1本の電圧側線に取付ける（中性線には取付けないでください）

- 電力計測用電流センサーを取付ける際、クランプ部を「カチッ」と音がするまでしっかりロックしてください。
- 電力計測用電流センサーについている矢印の向きは、どちらでも構いません。
- エコガイドTVの設定にて電力計測用電流センサーの設定を行ってください。
- 電力計測用電流センサー（2個）が2本の電圧側線にそれぞれ取付けられており、中性線には取付けられていないことを確認してください。

ご注意

- 必ず電線の被覆のついた部分をはさみ込むように取付けてください。充電部が露出した部分に取付けると、感電・故障の原因になります。
- クランプが不十分な場所や、太い電線や曲がった部分に無理に取付けると、売電電力、買電電力、消費電力を正しく検知できなくなります。
- 電力計測用電流センサーをはずした場合、エコガイドTVの設定（P15～20）を最初からやり直してください。

6. 据付け つづき

4 電力計測用電流センサーと送信ユニットからの電力計測用電流センサー接続ケーブルを接続する

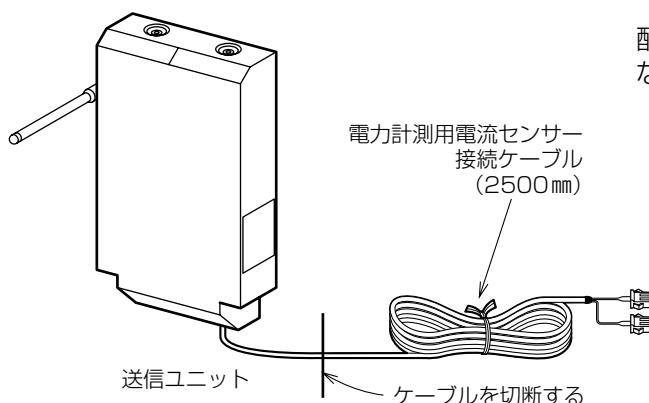
- 電力計測用電流センサー接続ケーブルの2つのコネクタに対し、どちらにどの電流センサーを接続しても問題ありません。
- 電力計測用電流センサーと電力計測用電流センサー接続ケーブルの接続をはずした場合は、エコガイドTVの設定 (P15~20) を最初からやり直す必要がある場合があります。
- 電力計測用電流センサー接続ケーブルが短い場合は、最大25mまで延長可能です。P12

で注意 ●電力計測用電流センサー接続ケーブルを無理に引っ張らないでください。断線の原因になります。

電力計測用電流センサー接続ケーブルの延長をする場合

配線時に電力計測用電流センサー接続ケーブルの長さが足りないときは下記手順にしたがって延長してください。

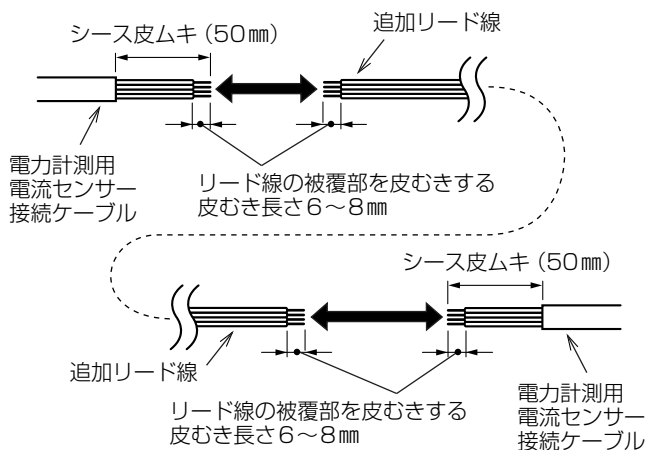
1 電力計測用電流センサー接続ケーブルを送信ユニットより外部位置で切断する



2 電力計測用電流センサー接続ケーブルのシースを50mm皮むきし、さらにリード線の被覆部を6~8mm皮むきする

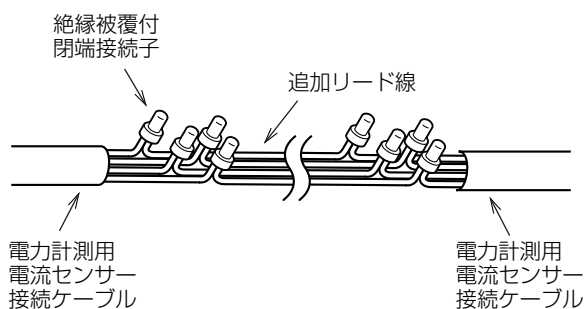
- 追加するリード線の被覆部も同様に6~8mm皮むきしてください。

で注意 ●追加リード線の仕様
導体断面積 0.2mm² (AWG24)*
絶縁体厚さ 0.4mm
※線材例：VCTF 0.3mm² 4芯
●全長（電力計測用電流センサー接続ケーブル+追加リード線）を25m以下にしてください。



3 電力計測用電流センサーケーブルの各リード線が同じ色どうし接続されるよう、下記による絶縁被覆付閉端接続子でかしめる

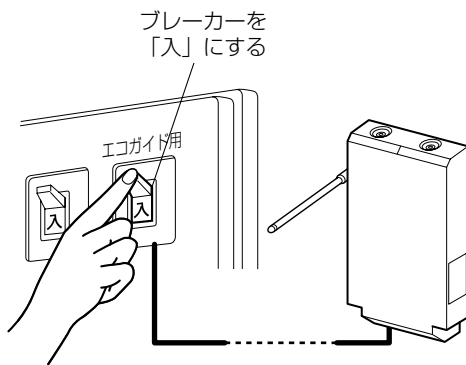
で注意 ●絶縁被覆付閉端接続子：EC05-1 (ニチフ製)
●圧着工具：NH5 (ニチフ製)
●各リード線が同じ色どうし接続されるようご注意ください。
●追加リード線にキズがつかないように保護を行なってください。また適宜結束してください。
●工事後は導通確認を行なってください。
●電力計測用電流センサー接続ケーブルを無理に引っ張らないでください。断線の原因になります。



受信ユニットの設置

ご注意

- 受信ユニットと送信ユニット間の無線通信は、障害物のない見通しのよい場所で正面を向き合わせたとき約10m届きますが、両ユニットの設置位置関係、壁や扉などの材質や枚数によって通信距離が極端に短くなることがあります。設置場所にて受信ユニットと送信ユニット間の無線通信が可能なことを、必ず確認してください。
- 電波が不安定な場合、記録データに抜けなどの異常が発生することがあります。



1. 送信ユニットと同じ室内での無線通信の確認

1 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを入れる

2 送信ユニットと同じ室内で、受信ユニットの電源プラグをコンセントに差し込む

ご注意

- 受信ユニットの電源が送信ユニットより先に入っている場合は、受信ユニットの表示部に「無線通信できません」と数秒程度表示されることがあります。

3 受信ユニット表示部の電波を示すアンテナマークが表示されていることを確認する

- アンテナマークが定常的に  となっていることを確認してください。

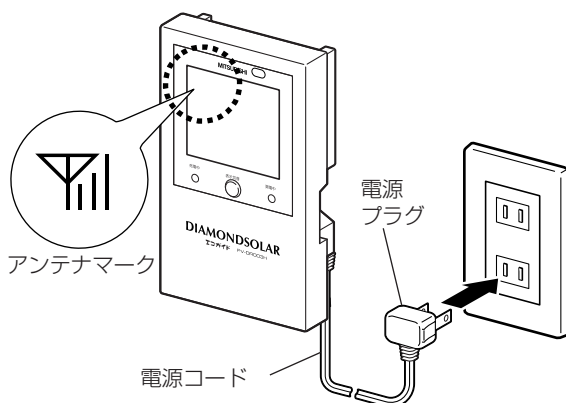
ご注意

- 受信ユニットと送信ユニット間に遮へい物があると無線通信を妨害される場合があります。
- 受信ユニットの電源プラグを差し込んだ直後の数秒間は「無線通信できません」と表示されます。
- 送信ユニットと受信ユニットのセットは、工場出荷時に無線通信の登録(ペアリング)を実施済みです。

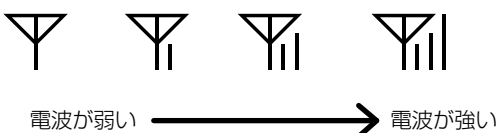
P33~34

- 送信ユニットと受信ユニットの電源を入れてから1分以上たっても「無線通信できません」が表示され続ける場合は当社までお問い合わせください。

● アンテナマークの位置



● アンテナマークと電波の強弱の関係





2. 据付場所での無線通信の確認

1 「送信ユニットと同じ室内での無線通信の確認」が終わったら、いったん受信ユニットの電源プラグを抜き、実際の据付場所に受信ユニットを移動させる

2 受信ユニットの据付場所に仮置きし、電源プラグをコンセントに差し込む

- 接続予定のテレビがあれば、付属のS映像(またはビデオ映像)ケーブルが届く範囲かあわせて確認してください。

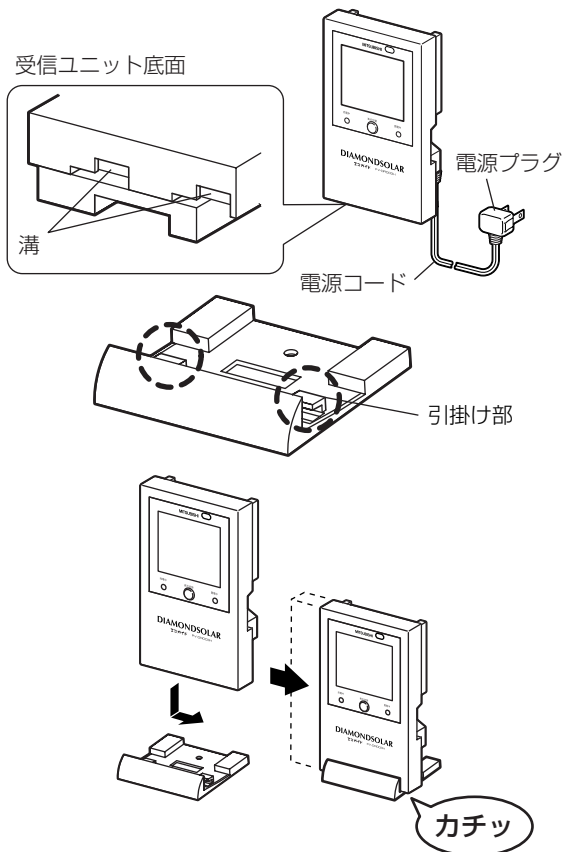
3 受信ユニット表示部の電波を示すアンテナマークが表示されていることを確認する

- アンテナマーク表示が定常的に  または  となる場所で使用してください。

こんなときは

- 電波が弱い場合や「無線通信できません」と表示される場合は、据付予定場所を変更して再度アンテナマークを確認してください。
- 据付場所を変更しても通信ができない場合、有線接続にて通信ができます。 **P25** または、別売の中継機(形名: PV-DRT02)を設置することで無線通信ができます。

6.据付け つづき



3.受信ユニットの設置

■設置前に下記の項目を確認してください。

- 設置位置で通信が可能か「2.据付場所での無線通信の確認」を行ってください。
- テレビと受信ユニットをつなぐケーブルの長さを確認してから、据付け位置を決定してください。
- 付属のS映像ケーブルの長さは2mです。
- 設置場所が不安定でないか確認してください。
- 受信ユニットは電源に家庭用AC100Vコンセントを利用します。電源プラグがコンセント差し込み口まで届くか確認してください。
- 受信ユニットは壁掛けにて使用することもできます。▶P31

1 スタンドの引掛け部に受信ユニットの溝位置を合わせる

- 引掛け部と溝がうまく合わないときはいったんはずし、無理に押し込まないでください。無理に押し込むと引掛け部を破損する原因になります。

2 受信ユニットを「カチッ」と音がするまで横にスライドさせる

- 引掛かる場合は無理に押し込まないでください。破損する原因になります。いったん元の位置まで戻し、再度スライドさせてください。

※この説明は連系後が前提となっています

エコガイドTVの設定 (設定モード) ※エコガイドTVの設定には、運転可能な適合パワーコンディショナが1台以上必要です。

単相三線の内、電圧側線 (L1、L2)、中性線 (N) の3本の電線が共に家庭内に引き込まれている場合と、L1またはL2のいずれか1本とNの2本の電線が家庭内に引き込まれている場合で手順が異なります。

■お客様宅の配線を確認する

- (1) お客様宅の分電盤のカバーをはずし、内部配線が確認できる状態とする。
- (2) 分電盤内の主電源用漏電ブレーカーを確認し、「お客様宅内の配線状態」によって手順を確認してください。

お客様宅内の配線状態	手順
単相三線の内、L1、L2、Nの3本の電線が共に家庭内に引き込まれている	据付工事説明書P15～P20「エコガイドTVの設定」の作業手順に沿って「■エコガイドTVの設定の準備」から順に設定を行う。
単相三線の内、L1またはL2のいずれか1本とNの2本の電線が家庭内に引き込まれている	「17.主電源用漏電ブレーカーの使用負荷が2線 (100V) のみの場合」P35へ進む。

■エコガイドTVの設定の準備

1 接続箱の太陽電池開閉器を「ON」にする

2 パワーコンディショナの直流側開閉器を「入」、運転切換スイッチを「停止」にする

- 複数のパワーコンディショナ、外部発電機 (エコウィル、エネファームなど) が設置してある場合は全て「停止」にしてください。「■エコガイドTVを設定する」の「3 電力計測用電流センサーを検出する (ステップ3)」P16において、パワーコンディショナが発電していると正しく設定ができません。

3 IHクッキングヒーターなど200V仕様の機器を動かす

- 200V仕様の機器が無い場合、家中の照明を点灯するなど電力を消費する状態にしてください。

※電流センサーの方向判定を行うために非常に重要ですので、必ずL1、L2の両方に通電した状態で実施してください。

■送信ユニットを設定モードで起動する

※初めて設定モードを実施する場合の手順は5から、2回目以降の設定モード実施の場合の手順は1から操作を行ってください。

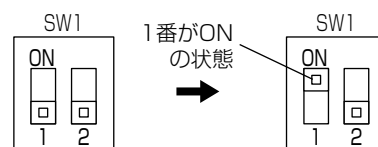
1 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを切り、送信ユニットの電源を切る

2 送信ユニットのカバーをはずす

- 送信ユニットの電源を切った後で送信ユニットのカバーをはずしてください。

3 送信ユニットの設定スイッチ (SW1) の1番をON側にスライドする

- で注意** ●送信ユニットの電源OFFの状態設定スイッチ操作をしないと操作を受けません。



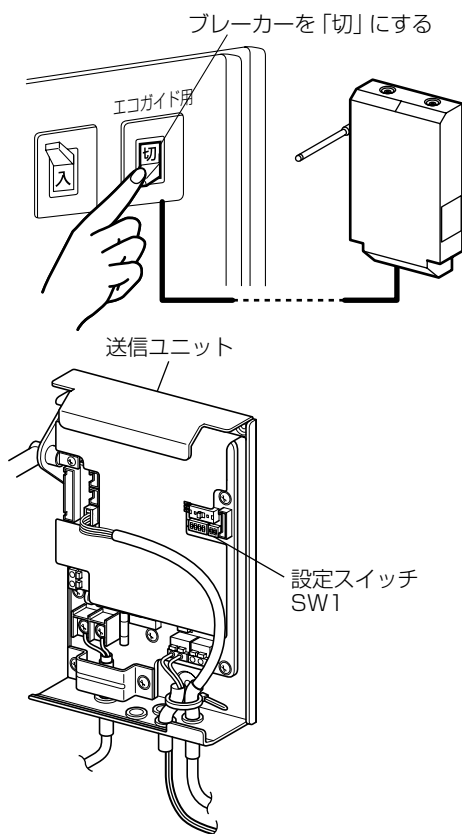
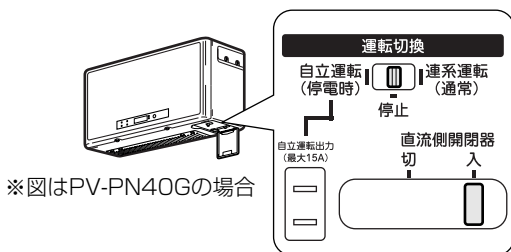
4 送信ユニットのカバーを取付ける

5 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを入れる

※初めて電源を入れた時は、設定スイッチ (SW1) の1番がOFFでも設定モードが起動します。

6 受信ユニットの電源プラグをコンセントに差し込む

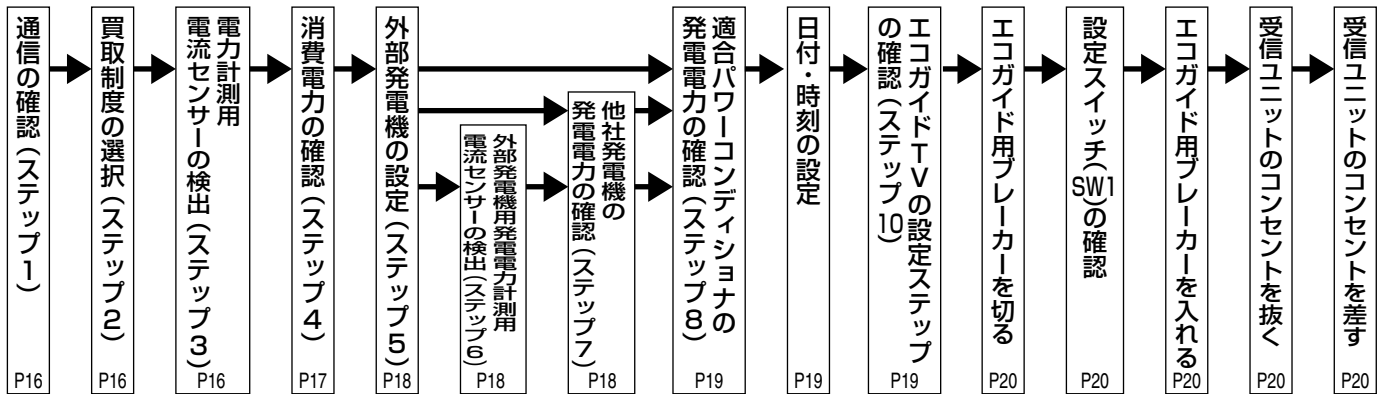
※テレビと接続している場合、テレビ画面に「設定モード実施中」と表示されます。



6. 据付け つづき

■ エコガイドTVを設定する

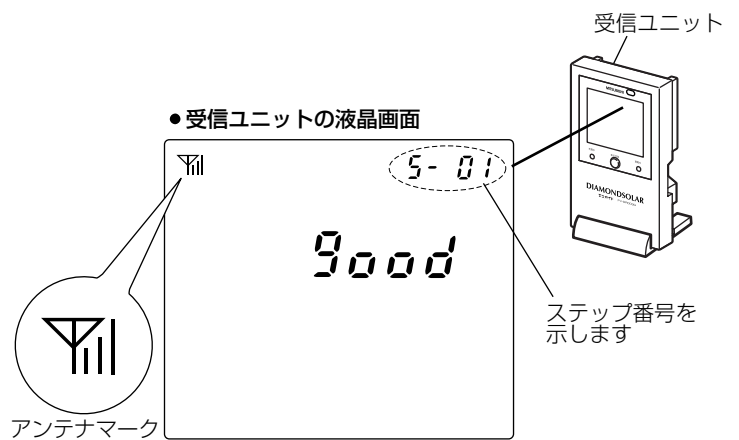
● エコガイドTVの設定のながれ



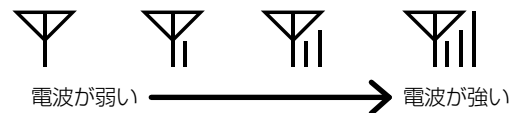
1 通信を確認する(ステップ1)

- 受信ユニットに「Good」と表示されていることを確認する。
- リモコンの を押して手順2へ進む
- ※ 無線通信の距離は、「受信ユニットの設置」P14の **【ご注意】** を参照してください。
- ※ 無線通信の時、アンテナマーク表示が または とならなければ「Good」表示されず「- - -」と表示されます。
- ※ 無線通信で受信ユニットの設置予定場所において「Good」表示とならない場合は、「エコガイドTV中継機(PV-DRT02)」(別売品)を追加してください。または、送信ユニットと受信ユニットを有線にて接続してください。P25

【ご注意】 ● リモコンを使用される前に、リモコン電池用の絶縁帯を必ず引き抜いてください。



● アンテナマークと無線電波の関係



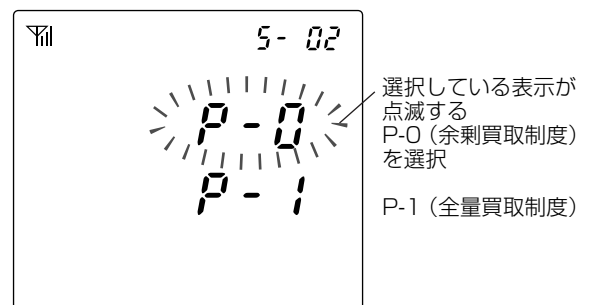
2 リモコンの または を押して買取制度を選択する(ステップ2)

「余剰買取制度」に設定する

- リモコンの または を押して「P-0」を点滅させ
- リモコンの を押して手順3へ進む


「全量買取制度」に設定する

- リモコンの または を押して「P-1」を点滅させ
- リモコンの を押して手順3へ進む

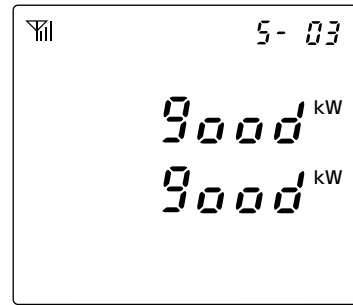


3 電力計測用電流センサーを検出する (ステップ3)

- 受信ユニットに「**Good**」と表示されていることを確認する。

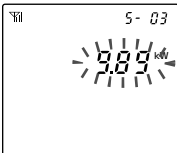
- リモコンの  を押して手順4へ進む

- ※違う表示がされた場合は、**ご注意**を確認ください。
- ※パワーコンディショナなど発電機は全て運転停止にしてください。正しくセンサーを検出できません。
- ※消費電力が少ないとセンサーを検出できません。
- ※パワーコンディショナが2台以上設置されていたり、外部発電機が設置されている場合は、正しく接続されているか送信ユニットの設定スイッチと共に確認してください。 **P26**



ご注意 ●下記表示の場合は不具合が考えられます。原因を確認し、正しく処置してください。

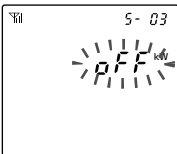
(表示例)



【症状】 発電電力の数値部分が点滅している

【原因】 パワーコンディショナが停止していない

【対処】 パワーコンディショナを確認し、運転切換スイッチを停止にする **P15**



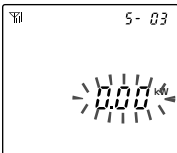
【症状】 発電電力の数値部分に「OFF」が表示され点滅している

【原因】 適合パワーコンディショナとの通信が出来ていない

【対処】 ●パワーコンディショナに電源が入るだけの日射量のある、明るい時間帯に実施する。
●適合パワーコンディショナの直流側開閉器が「切」になっていたら「入」にし、運転切換を「停止」にする。 **P15**

※パワーコンディショナの液晶が「- - - -」と表示されていることを確認してください。

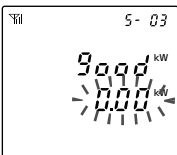
- 適合パワーコンディショナとエコガイドTVの通信線が断線していないか確認する。
- 接続箱の太陽電池開閉器が「切」になっていたら「入」にする。



【症状】 消費電力の数値部分に「0.00」が表示され点滅している

【原因】 消費電力が少ない場合

【対処】 屋内の照明を点灯するなど、消費電力を増やす。




【症状】 発電電力の数値部に「Good」が表示、消費電力の数値部分に「0.00」が表示され点滅している

【原因】 単相三線のうち、片方の相は問題ないが、もう一方の相の消費電力が少ない場合

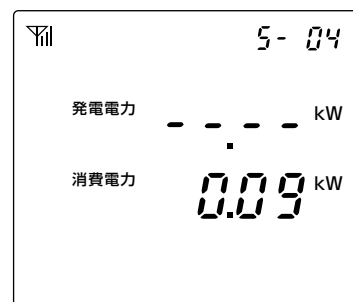
【対処】 両方の相とも電力を消費する機器が運転しているかを確認してください。電力を消費する機器を運転して、消費電力を増やしてください。

4 消費電力の変化を確認する (ステップ4)

- IHクッキングヒーターなどの200V仕様の機器を停止して消費電力が減少することを確認する。
- 200V仕様の機器が無い場合、家中の照明を消灯して消費電力が減少することを確認する。

- リモコンの  を押して手順5へ進む

(表示例)



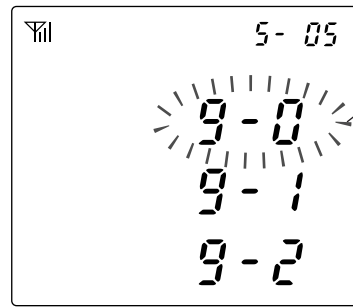
6.据付け つづき

5 他社発電機を設定する（ステップ5）

- 接続されている他社発電機の有無と種類を設定します。
- ※他社発電機とは、適合外パワーコンディショナ（適合パワーコンディショナ3台目、4台目を含む）または、外部発電機（エコウィル、エネファームなど）を示します。

他社発電機を設置していない場合

- リモコンの \triangle または ∇ を押して「9-0」を点滅させ、
リモコンの \odot を押して手順8へ進む

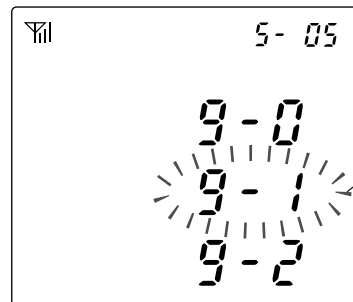


他社発電機を設置している場合

P26～P27の設定を先に実施してから以下の作業を行ってください

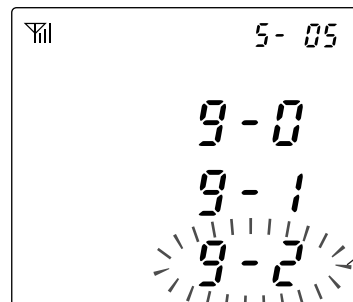
他社発電機として適合外パワーコンディショナ（適合パワーコンディショナ3台目、4台目を含む）が設置されている場合

- リモコンの \triangle または ∇ を押して「9-1」を点滅させ、リモコンの \odot を押して手順7へ進む



他社発電機として外部発電機（エコウィル、エネファームなど）を設置している場合

- リモコンの \triangle または ∇ を押して「9-2」を点滅させ、リモコンの \odot を押して手順6へ進む

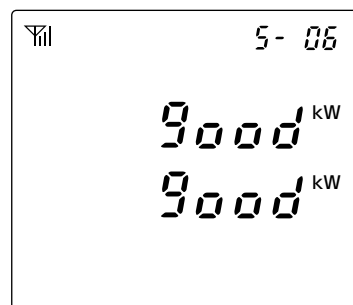


6 外部発電機（エコウィル、エネファームなど）用発電電力計測用電流センサーを検出する（ステップ6）

- 外部発電機（エコウィル、エネファームなど）を運転してください。
- 受信ユニットに「Good Good」と表示されていることを確認する。

※発電電力が少ないとセンサーが検出できません。
※運転開始から発電開始までに時間がかかることがあります。

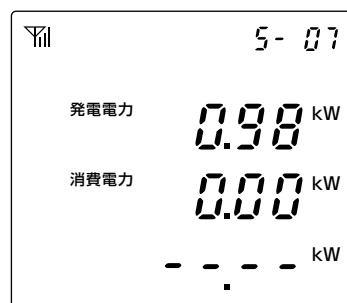
- リモコンの \odot を押して手順7へ進む



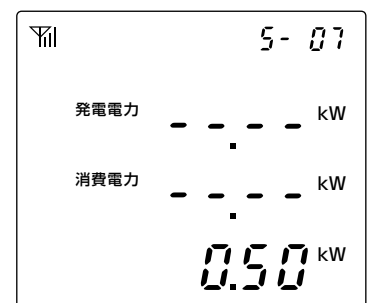
7 他社発電機の発電電力を確認する（ステップ7）

- 適合外パワーコンディショナを運転してください。
- 発電電力が表示されていることを確認する。
適合外パワーコンディショナ1は、発電電力の数値部に表示されます。
適合外パワーコンディショナ2は、消費電力の数値部に表示されます。
外部発電機（エコウィル、エネファームなど）は、一番下の数値部に表示されます。
- ※運転開始から発電開始までに時間がかかることがあります。

- リモコンの \odot を押して手順8へ進む



9-1を選択した場合の表示

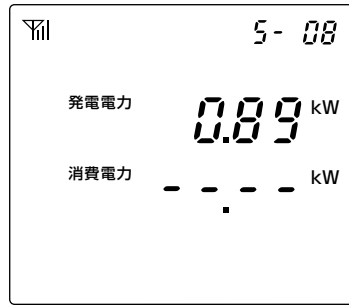


9-2を選択した場合の表示

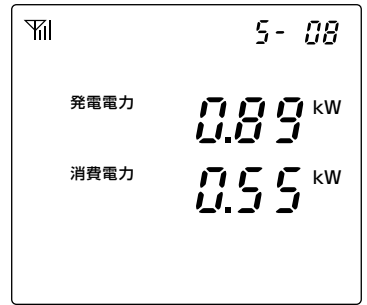
8 適合パワーコンディショナの発電電力を確認する (ステップ8)

- 適合パワーコンディショナの運転スイッチを「連系運転」にして運転を開始する。
- 発電電力が表示されていることを確認する。
パワーコンディショナ1は、発電電力の数値部に表示されます。
パワーコンディショナ2は、消費電力の数値部に表示されます。
- リモコンの^{決定}を押して手順9へ進む

●パワーコンディショナ1のみ接続の場合



●パワーコンディショナ1とパワーコンディショナ2接続の場合



9 日付と時刻を設定する

以下の手順で日付と時刻を設定する。

- 「年」>「月」>「日」>「時」>「分」の順番で設定する。
- リモコンの[▶]または[◀]を押して設定する項目を点滅させ、リモコンの[▲]または[▼]を押して設定する数値を変更する。

●項目(点滅)の移動と数字の変更

ボタン	内容
[▲]	数字を1つ増やします。
[▼]	数字を1つ減らします。
[▶]	項目を下に1つ移動します。 (下の項目が点滅します)
[◀]	項目を上1つ移動します。 (上の項目が点滅します)

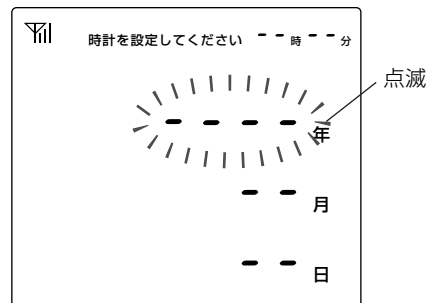
●点滅は「年」「月」「日」「時」「分」の順番に移動し、「分」からさらに[▶]を押すと「年」がふたたび点滅します。

- 設定した日付・時刻を確認し、リモコンの^{決定}を押して手順10へ進む

10 エコガイドTVの設定を確認する (ステップ10)

- 受信ユニットに「*Good*」と表示されていることを確認する。
- 設定内容を反映させるために、手順11へ進む。

●日付・時刻が未設定の液晶画面

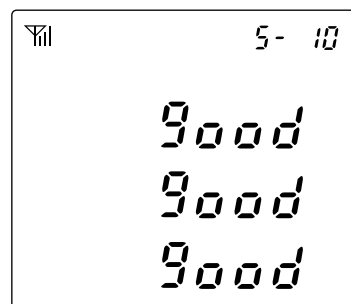


数値の変更 →

リモコンの[▲]を押して
数字を増やす

項目の移動 →

リモコンの[▶]を押して
項目を移動する
(例:「年」の下の「月」が点滅します)



ステップ6,7,8でこんな表示が出たら

ステップ6または7で^{決定}でなく^{キャンセル}を押した場合

- 受信ユニットに「*Good*」と表示されます。

●再度、設定モードをやり直し、ステップ6または7で^{キャンセル}を押して次のステップに進んでください。

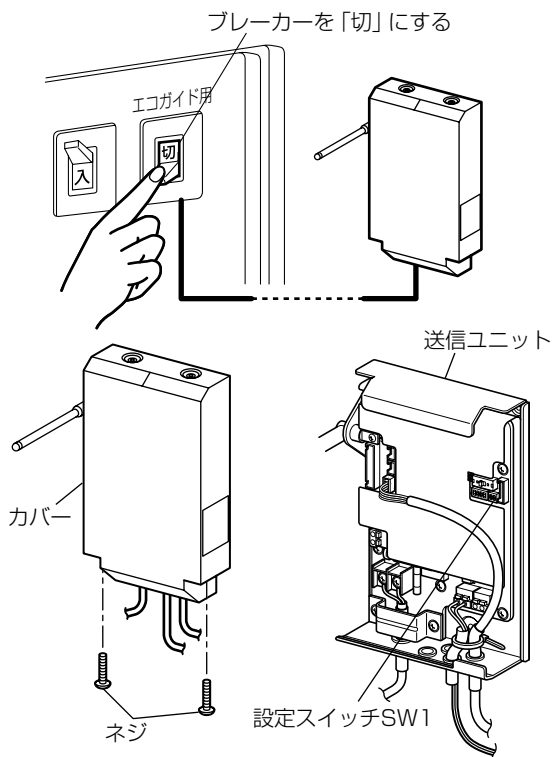
ステップ8で^{決定}でなく^{キャンセル}を押した場合

- 受信ユニットに「*Good*」と表示されます。

●再度、設定モードをやり直し、ステップ8で^{キャンセル}を押して次のステップに進んでください。

6.据付け つづき

- エコガイドTVの設定内容を反映する（送信ユニットと受信ユニットのリセット）。



■送信ユニットを通常モードに戻す

- 11 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「切」にする
- 12 送信ユニットのカバーをはずす
- 13 送信ユニットの設定スイッチ(SW1)の1番をOFFにする
 - 設定スイッチ (SW1) の1番がOFFであることを確認する。

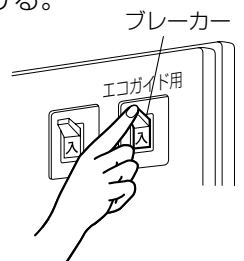


- 14 送信ユニットのカバーを取付ける

- 設定スイッチ (SW1) の1番がOFFであることを確認したら、送信ユニットのカバーを取り付ける。

- 15 10秒以上あけて、分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「入」にする

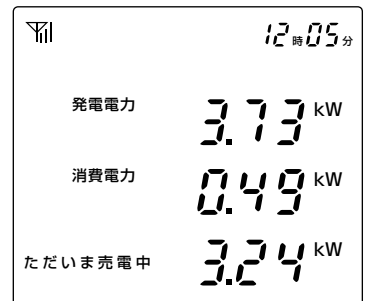
- ご注意** ●エコガイド用ブレーカーを「切」にしてから、必ず10秒以上あけて「入」にしてください。



■受信ユニットを通常モードに戻す

- 16 受信ユニットの電源プラグをコンセントからいったん抜く
- 17 10秒以上待ってから受信ユニットの電源プラグをコンセントに差し込みなおす

- 発電電力、消費電力表示の例



- ご注意** ●11～17の作業を行っていただくことによりエコガイドTVの設定内容が機器に反映されますので手順通り確実に行ってください。

エコガイドTVの設定が完了しない場合

以下の順番に操作を行ってください。

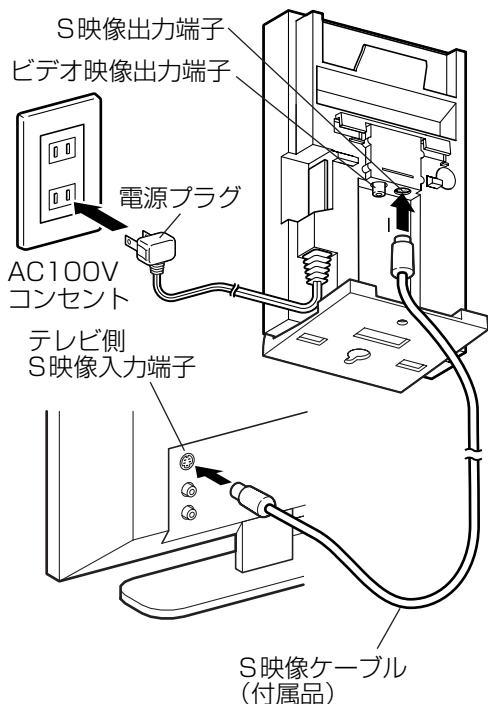
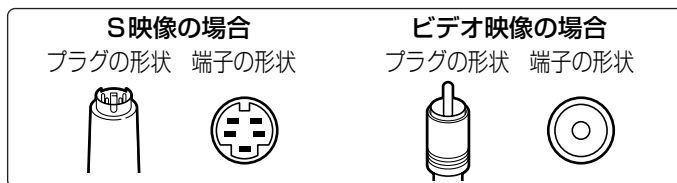
- (送信ユニット側の操作)
- 1.分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「切」にする
 - 2.送信ユニットの設定スイッチ (SW1) の1番をOFFにする
 - 3.10秒以上待つ
 - 4.分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「入」にする
- (受信ユニット側の操作)
- 5.受信ユニットの電源プラグをコンセントからいったん抜く
 - 6.10秒以上待つ
 - 7.受信ユニットの電源プラグをコンセントに差し込みなおす

- ご注意** ●分電盤内のエコガイド用ブレーカーの「切」「入」の間隔、及び受信ユニットの電源プラグを抜いている時間は、10秒以上あけてください。
10秒以上の間隔がない場合、エコガイドTVが設定モードから通常モードに戻らない場合があります。
- 送信ユニット側の操作を行ってから、受信ユニット側の操作を行ってください。順番が違くと通常モードに戻りません。

■受信ユニットとテレビを接続する

1 受信ユニット背面のS映像出力に付属のS映像ケーブルを接続する

- S映像が利用できない場合はビデオ映像ケーブル（市販品）でも接続できます。（3m以内）



■ビデオ映像ケーブル（市販品）を使用する場合

- 受信ユニット背面のビデオ映像出力端子にビデオ映像ケーブル（市販品）を接続してください。（3m以内）

ご注意

- S映像ケーブルとビデオ映像ケーブルの両方を接続しないでください。両方接続しますとテレビ画面が表示されません。

2 S映像ケーブルの片方をテレビのS映像入力に、電源プラグをコンセントに差し込む

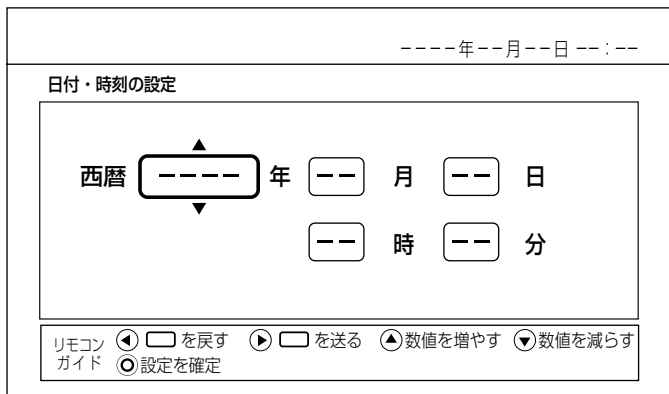
- S映像ケーブルの端子は方向があります。間違った方向で無理に差し込まないようにしてください。端子部を破損する原因になります。
- テレビ側の接続についてはテレビの取扱説明書をお読みください。

ご注意

- S映像ケーブルまたはビデオ映像ケーブルは正しく奥まで差し込んでください。正しく差し込んでいない場合、テレビ画面が白黒になることがあります。

こんな画面が表示されたときは

● 日付・時刻設定画面



エコガイドTVの設定完了の後に受信ユニットの電源プラグをコンセントから抜いたままにし、再度コンセントに差し込んで電源を入れると左図の画面が表示される場合があります。

「テレビ画面を見て日付・時刻を設定する場合」の手順3を参照して日付・時刻を再設定してください。

※設定完了後は基本画面に戻ります。P22

こんな画面が表示されたときは つづき

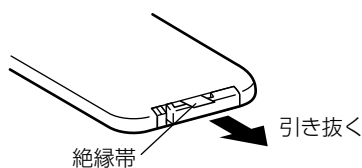
■テレビ画面を見て日付・時刻を設定する場合

- ①テレビの電源を入れ、受信ユニットの電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ②リモコン電池用の絶縁帯は引き抜いてください。
(絶縁帯がなければ抜き取り済みです)

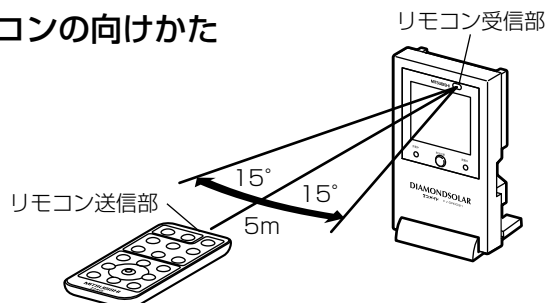
受信ユニットとテレビが正しく接続されていることを確認し、テレビの電源を入れてください。

※リモコンでテレビの電源と入力切替えの操作を行う場合は、接続するテレビのメーカーに合った設定が必要です。 **P32**

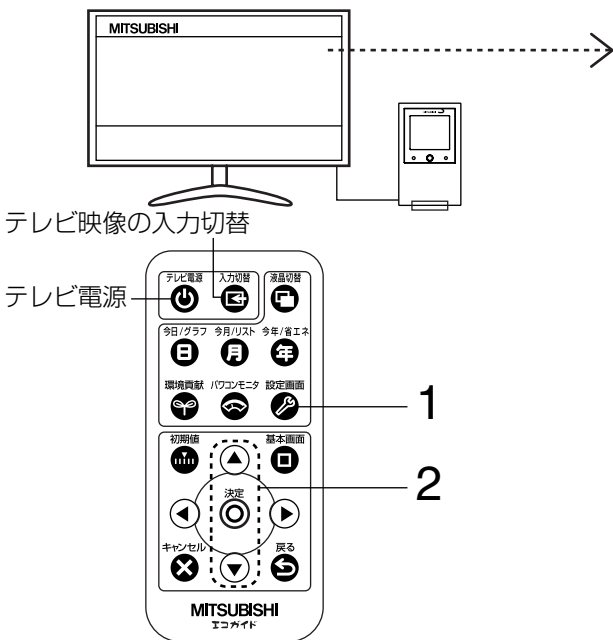
「発電電力量画面 (基本画面)」が表示されます。



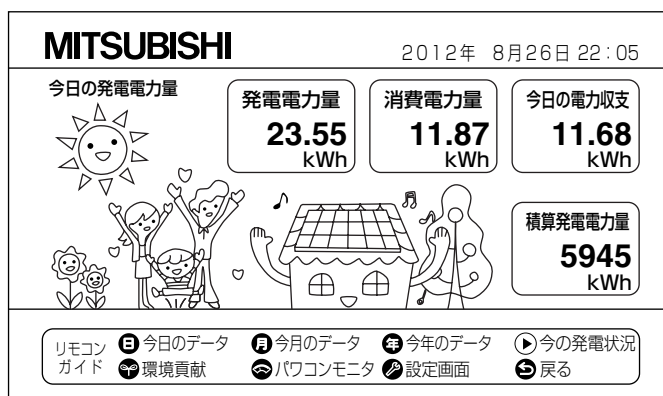
■ リモコンの向けかた



※リモコンの赤外線通信の有効範囲はリモコン受信部に対して左右15° 距離5mです。有効範囲を超えると受信感度が弱くなります。



● 発電電力量画面 (基本画面)



※日付・時刻が設定されていないときは、「日付・時刻の設定画面」が最初に表示されます。手順3に進んでください。

1 リモコンの **設定画面** を押して「設定画面」を表示させる

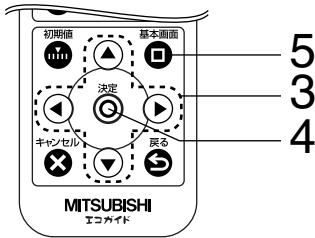
● 設定画面



2 リモコンの ▲ または ▼ を押して
カーソルで「日付・時刻の変更」を選択し、
リモコンの ^{決定} を押す

「日付・時刻変更画面」が表示されます。

※日付・時刻が設定されていないときは、日付・時刻の設定画面が最初に表示されます。



3 日付と時刻を変更する

カーソルの移動、数字の変更は下表のように行います。

●カーソルの移動と数字の変更

ボタン	内容
▲	数字を1つ増やします。
▼	数字を1つ減らします。
▶	カーソルを右に1つ移動します。
◀	カーソルを左に1つ移動します。

●カーソルは「年」「月」「日」「時」「分」の順番に移動し、「分」からさらにカーソルを右に移動させると「年」にふたたび戻ります。

■途中で設定をやめる場合

リモコンの ^{キャンセル} を押す

設定中でも設定が取り消され「設定画面」に戻ります。

4 リモコンの ^{決定} を押して確定する

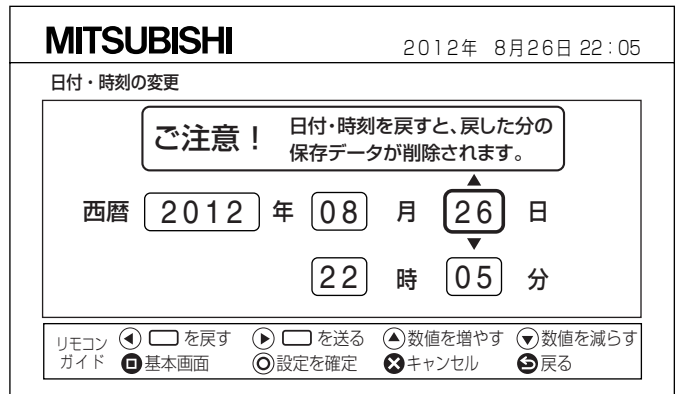
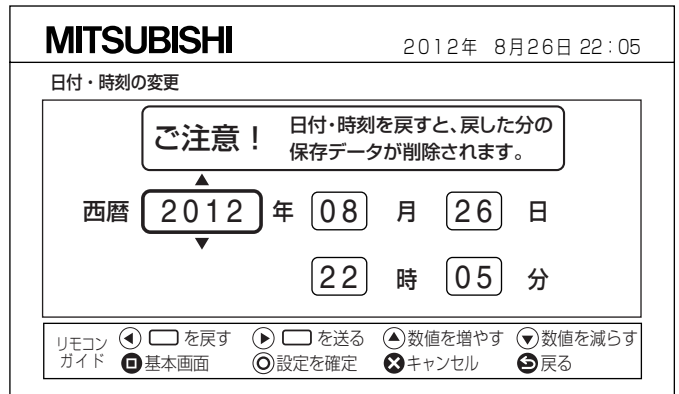
変更した日付・時刻が確定し、表示が「設定画面」に戻ります。

5 リモコンの ^{基本画面} を押して

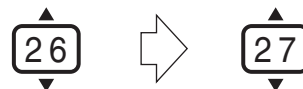
「発電電力表示画面(基本画面)」を表示させる

- 日付と時刻が正しく設定されたか確認してください。
- 間違っって設定した場合は1～4の手順を行ってください。

●日付・時刻変更画面

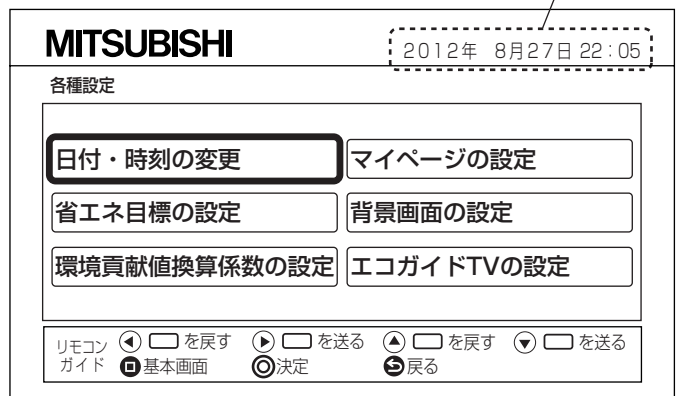


▶ を押してカーソルを移動する



▲ を押して数字を増やす

変更した日付と時刻になっていることを確認してください



7. 据付工事後の確認

据付工事が完了しましたら、下記項目をもう一度点検してください。

不具合がありましたら必ず直してください。(機能が発揮されないばかりか、安全が確保できません)

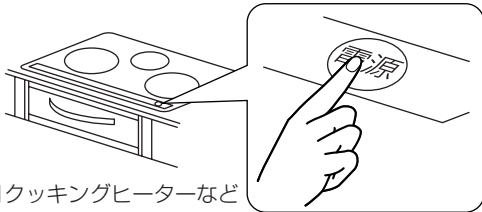
□送信ユニットの設定スイッチ (SW1) の1番がOFFであること

□エコガイド用ブレーカーが「入」になっていること

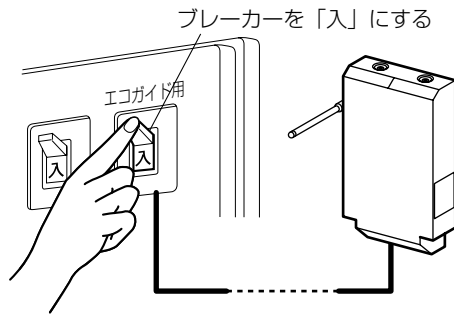
ご注意 ●電力計測用電流センサーをはずした場合、エコガイドTVの設定を最初からやり直してください。P15～20

8. 試運転 ……お客様立ち会いのもと、試運転は必ず実施してください (以下の手順で必ず実施してください)

試運転を開始する前に「7.据付工事後の確認」を行ってください。



※IHクッキングヒーターなど



ブレーカーを「入」にする

1 試運転を開始する

- IHクッキングヒーターなど、200V仕様の機器を動かす
※200V仕様の機器がない場合は、全ての部屋の照明を点灯させるなど電力を消費する状態にしてください。

2 テレビの入力を受信ユニットの接続された外部入力に切替える

- 受信ユニットの液晶表示部が点灯、テレビ画面に映像が表示されます。

こんなときは

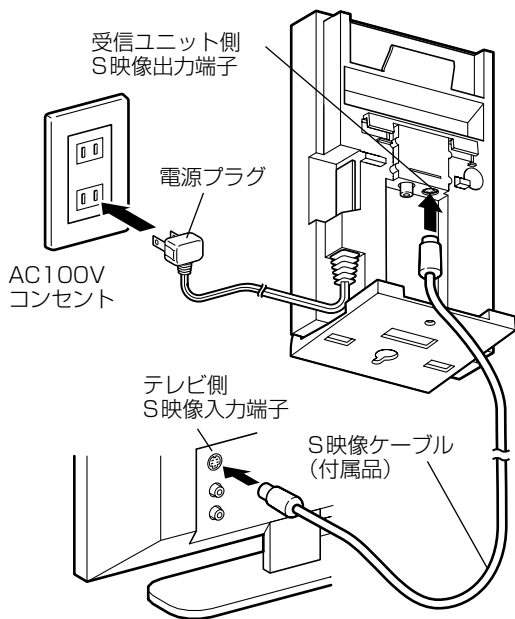
- テレビ画面にエコガイドTVの画面が全く出ない
⇒ ●映像/S映像ケーブルの接続や、受信ユニットの電源コードを再度確認してください。
●テレビの外部入力を接続にあわせて切替えてください。
- 受信ユニット液晶表示部に「無線通信できません」と表示される
⇒ 分電盤内のエコガイド用ブレーカーが「入」になっていることを再度確認してください。

3 消費電力を確認する

- 受信ユニットの液晶表示部にIHクッキングヒーターなど、200V仕様の機器相当以上の消費電力が表示されることを確認してください。

こんなときは

- IHクッキングヒーターなど、200V仕様の機器相当以上の消費電力が表示されない
⇒ 電流センサーの取付け、AC100V配線などを確認してください。 **P7**
※電力計測用電流センサーの取付けを変更した場合は、再度エコガイドTVの設定を行ってください。 **PT5~20**
- ⇒ 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを入れなおしてください。



受信ユニット側
S映像出力端子

電源プラグ

AC100V
コンセント

テレビ側
S映像入力端子

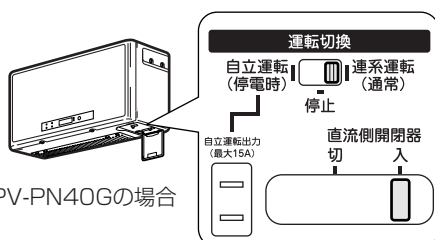
S映像ケーブル
(付属品)

4 発電電力を確認する

- パワーコンディショナの直流側開閉器が「入」、接続箱の太陽電池開閉器が「ON」となっていることを確認してから、パワーコンディショナの運転切換スイッチを「連系」にして、連系運転を開始してください。
- パワーコンディショナが発電を開始したら、発電電力が増えることを確認してください。

こんなときは

- 上記の表示が全く確認できない
⇒ パワーコンディショナとモニター間の配線（通信用ケーブル）を確認してください。
※太陽光発電システムが発電できる状態（日中の晴天時あるいは曇天時）のときに実施してください。

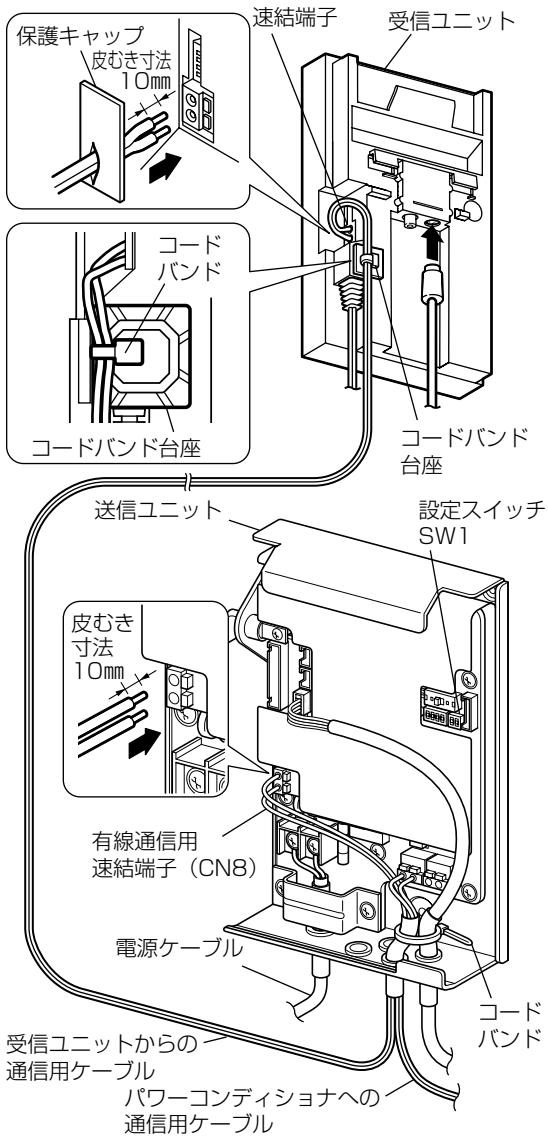


※図はPV-PN40Gの場合

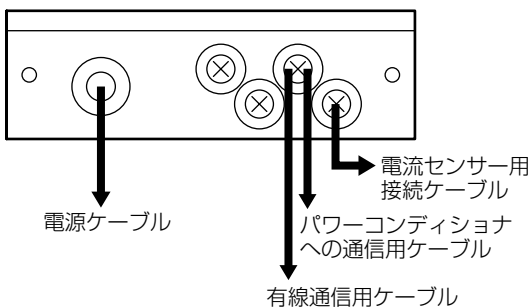
9. お客様への説明

- 別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。
特に「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るように説明してください。
(新築など未入居の場合は、発注者様または管理人様などに説明してください)
- この据付工事説明書は、製品の据付後、お客様にお渡しください。なお同梱の取扱説明書（保証書付）も必ずお客様にお渡しください。

10. 受信ユニット、送信ユニットを有線通信で使用する



送信ユニットを下から見た図

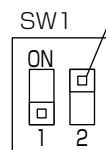
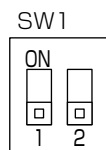


で注意 ●接続後は必ずエコガイドTVの設定を行ってください。

P15~20

受信ユニットを有線で接続する

- 設置してあるパワーコンディショナ全ての直流側開閉器を「切」にする。
 - 受信ユニットの電源プラグを抜く。
 - 分電盤のエコガイド用ブレーカーを切る。
- 1 受信ユニット右側面の保護キャップをいったんはずし、保護キャップを通して皮むきした通信用ケーブル（PVC線2芯）を速結端子に接続する
 - 極性はありませんので、どちらに接続しても問題ありません。
 - 速結端子にケーブルを接続する時は、速結端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。
 - 通信ケーブルの長さは50m以下にしてください。
 - 保護キャップはホコリが入らないようにもとどおり取付けてください。
 - 2 付属のコードバンド台座を受信ユニット裏側の図の位置に接着し、コードバンドを穴に通し、ケーブルを固定する
 - 3 送信ユニットのネジ2本をはずし、カバーをはずす
 - 4 パワーコンディショナとの通信用ケーブルが通っている保護チューブに受信ユニットからの通信用ケーブルを通す
 - 5 皮むきした通信用ケーブルを有線通信用速結端子（CN8）に接続する
 - 極性はありませんので、どちらに接続しても問題ありません。
 - 速結端子にケーブルを接続する時は、速結端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。
 - 確実に接続されていることを確認してください。
 - 6 送信ユニットの設定スイッチ SW1 の2番を ON 側にスライドする

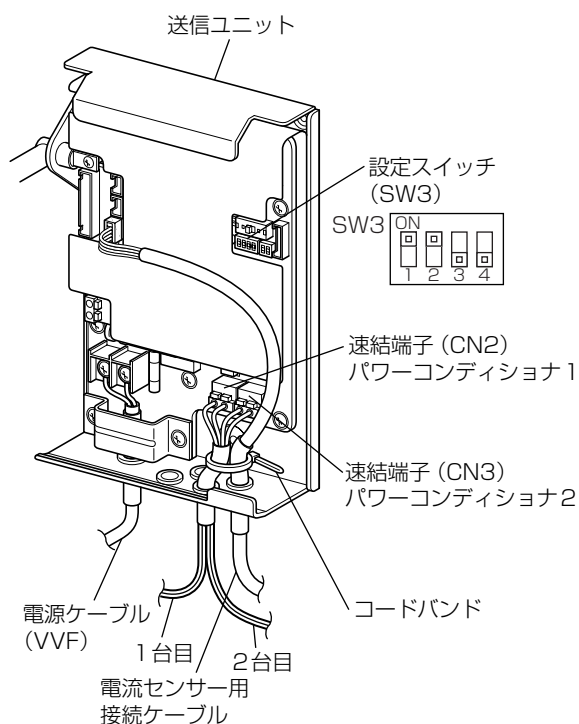


2番がONの状態

スイッチ2	ON：有線通信 OFF：無線通信
スイッチ1	常にOFFのままにしてください。

- 7 付属の新しいコードバンドで通信用ケーブルを電流センサー用接続ケーブルと送信ユニット内で束ねて固定し、送信ユニットのカバーをはずしておいたネジ2本で取付ける
 - コードバンドを切った場合は必ず新しいコードバンドを用意し、まとめて束ねてください。

11.2 台目のパワーコンディショナの接続 および他社発電機の接続



2 台目の 適合パワーコンディショナの接続

- 設置してあるパワーコンディショナ全ての直流側開閉器を「切」にする。
- 受信ユニットの電源プラグを抜く。
- 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを切る。

1 送信ユニットのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす

2 通信用ケーブルは 1 台目の通信用コードと同じ保護チューブに通し、速結端子 (CN3) に接続する

- コードバンドを切った場合は必ず新しいコードバンドを用意し、まとめて束ねてください。
- 速結端子にケーブルを接続する時は、速結端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。

3 送信ユニットの設定スイッチ (SW3) の 2 番を ON にする

- ご注意** ● 送信ユニットの電源 OFF の状態で設定スイッチ操作をしないと操作を受けません。

4 付属の新しいコードバンドで電流センサー用ケーブルと束ねて固定し、送信ユニットのカバーをはずしておいたネジ 2 本で取付ける

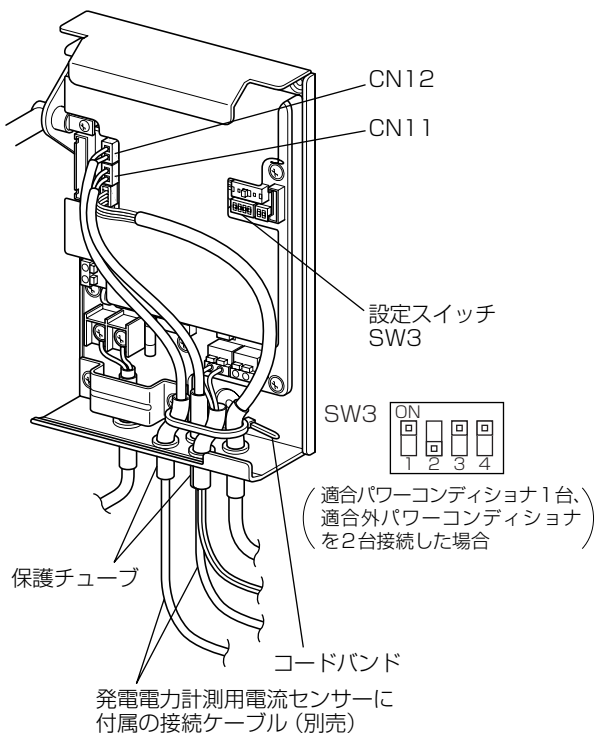
- コードバンドを切った場合は必ず新しいコードバンドを用意し、まとめて束ねてください。

- ご注意** ● 接続後は必ずエコガイド TV の設定を行ってください。

P15~20

他社発電機の接続

- 他社発電機とは適合外パワーコンディショナ（適合パワーコンディショナ 3 台目、4 台目を含む）または外部発電機（エコウィル、エネファームなど）を示します。
- 適合外パワーコンディショナを接続する場合は、最大 2 台まで発電電力の計測ができます。1 台あたり、別売りの発電電力計測用電流センサー（PV-DC01）1 個を事前に用意してください。
- 外部発電機（エコウィル、エネファームなど）を接続する場合は、最大 1 台まで発電電力の計測ができます。1 台あたり別売りの発電電力計測用電流センサー（PV-DC01）を 2 セット、事前に用意してください。
- 設置してあるパワーコンディショナ全ての直流側開閉器を「切」にする。
- 受信ユニットの電源プラグを抜く。
- 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを切る。



SW3の設定

スイッチ1	常にON：パワーコンディショナ1を接続する
スイッチ2	ON：パワーコンディショナ2を接続する OFF：パワーコンディショナ2を接続しない
スイッチ3	ON：CN11に発電電力計測用電流センサー1を接続する OFF：CN11に発電電力計測用電流センサー1を接続しない
スイッチ4	ON：CN12に発電電力計測用電流センサー2を接続する OFF：CN12に発電電力計測用電流センサー2を接続しない

1 送信ユニットのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす

2 適合外パワーコンディショナの場合

別売りの発電電力計測用電流センサーに付属の接続ケーブルを送信ユニットの使用していないブッシュに保護チューブとともに通し、コネクタ CN11 に 1 台目を接続する。2 台目は、コネクタ CN12 に接続する。

外部発電機（エコウィル、エネファームなど）の場合

別売りの発電電力計測用電流センサーに付属の接続ケーブル 2 本を送信ユニットの使用していないブッシュに保護チューブとともにそれぞれ通し、コネクタ CN11 とコネクタ CN12 に接続する。

3 送信ユニットの設定スイッチ（SW3）の 3 番・4 番を ON にする

4 別売りの発電電力計測用電流センサーに同梱の新しいコードバンドで発電電力計測用電流センサーに付属の接続ケーブルと束ねて固定し、送信ユニットのカバーをはずしたネジ 2 本で取付ける

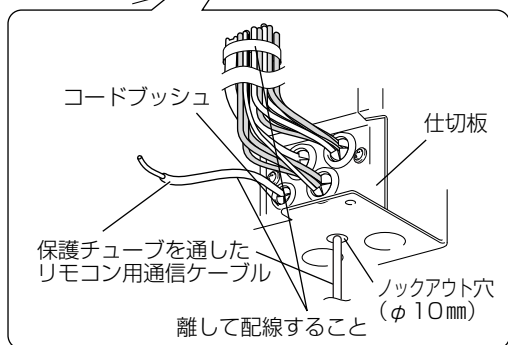
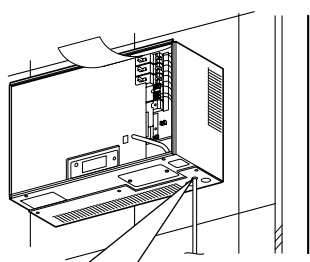
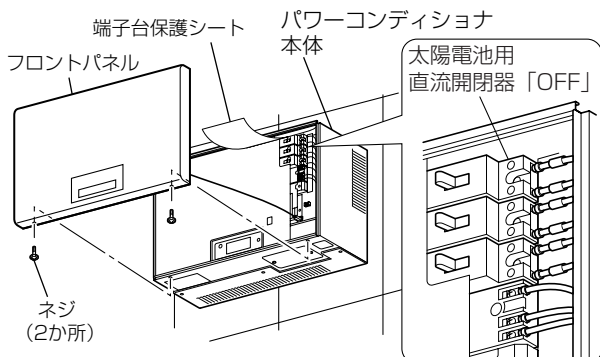
- コードバンドを切った場合は必ず新しいコードバンドを用意し、まとめて束ねてください。
- 発電電力計測用電流センサー（PV-DC01）の取付けは、付属の据付工事説明書を参照してください。

ご注意

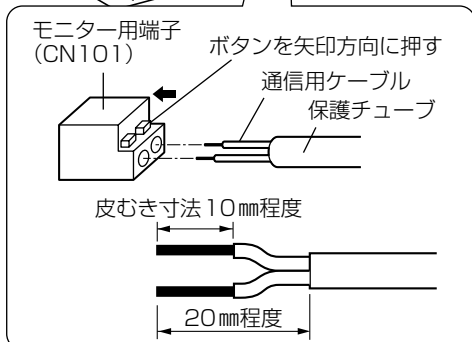
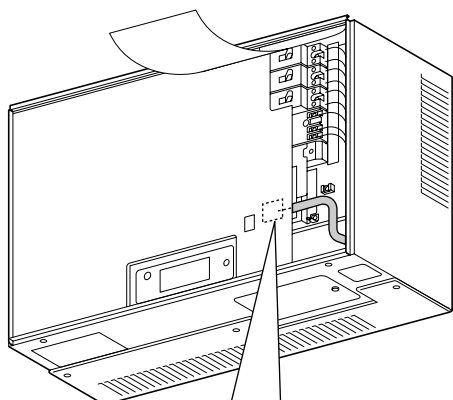
- 接続後は必ずエコガイドTVの設定を行ってください。**P15~20**
- 適合外パワーコンディショナ 1 台あたり 10kW までの発電機の発電電力を計測できます。
- エコガイドTVに表示される電力値表示と発電機の表示とは異なることがあります。

12. 三菱電機 PV-PN40G、PV-PN55G 以外のパワーコンディショナへの接続

PV-PS40Jへの接続



※上図は露出配線の場合を示します



■通信用ケーブルの接続

1 パワーコンディショナのフロントパネルと仕切り板をはずす

- 「太陽電池用直流開閉器 (3個)」が「OFF」になっていることを確認してください。
- 既設のパワーコンディショナに接続する場合は分電盤のエコガイド用ブレーカが「OFF」になっていることを確認してください。
- フロントパネル等のはずし方はパワーコンディショナの据付説明書を参照してください。

2 仕切り板のゴムブッシュに、本機に付属の保護チューブ (φ7×500mm) を通す

- 保護チューブが通しにくい時はゴムブッシュをコードクリップからはずしてから、ゴムブッシュに保護チューブを通した後、ゴムブッシュをコードクリップに取付けてください。
- パワーコンディショナ内部側への保護チューブの長さを約300mmになるよう調整してください。

3 保護チューブに皮むきした通信用ケーブルを通す

4 保護チューブに通した通信用ケーブルをモニター用端子 (CN101) に接続する

- 極性はありませんので、どちらに接続しても問題ありません。
- モニター用端子にケーブルを接続する時は、モニター用端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。

ご注意 ● 各ケーブルの差し込み状態を確認してください。差し込みが不十分の場合、通信異常発生の原因になります。

5 パワーコンディショナの仕切り板とフロントパネルを元通りに取付ける

- 製品外の屋内配線は、通信用ケーブルと交流側ケーブルとの間隔を300mm以上離して配線してください。

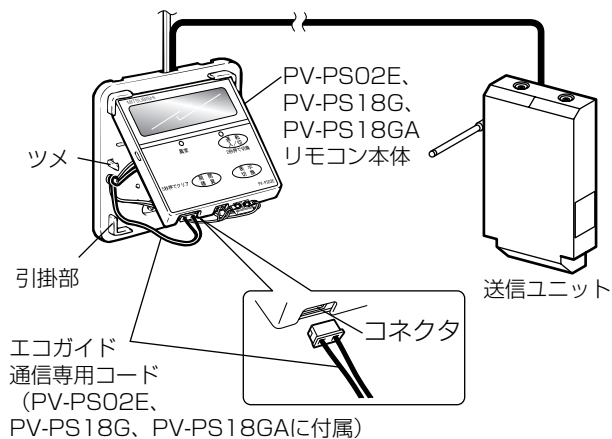
PV-PS02EまたはPV-PS18G、PV-PS18GAへの接続

PV-PS02E、PV-PS18G、PV-PS18GAへの接続

1 PV-PS02EまたはPV-PS18G、PV-PS18GAのリモコン本体のコネクタにPV-PS02EまたはPV-PS18G、PV-PS18GAに付属のエコガイド通信専用コードを接続する

2 エコガイド通信専用コードをリモコン本体裏側にまわす

3 エコガイド通信専用コードを送信ユニットの速結端子(CN2)に接続する **P8**



ご注意

- 一つのリモコンにPV-PS02E、PV-PS18G、PV-PS18GAを複数台接続している場合は、合計値が表示されます。

その他のパワーコンディショナへの接続

1 パワーコンディショナのフロントパネルと、配線カバーをはずす

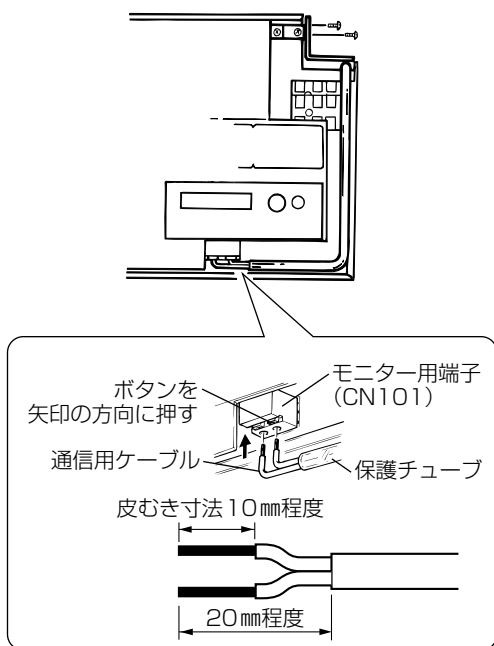
- 接続箱の全ての太陽電池開閉器が「OFF」、パワーコンディショナの直流側開閉器が「切」、太陽光発電用ブレーカーが「OFF」、すでに分電盤のエコガイド用ブレーカーが接続されている場合は「OFF」になっていることを確認してください。

2 パワーコンディショナに皮むきした通信用ケーブルを接続する

- 1) 付属の保護チューブに皮むきした通信用ケーブルを通す。
- 2) パワーコンディショナの回路基板上の右側端から通信用ケーブルを通し、モニター用端子(CN101)に接続する。
 - 極性はありませんので、どちらに接続しても問題ありません。
 - モニター用端子にケーブルを接続する時は、モニター用端子のボタンを押しながらケーブルを差し込んでください。差し込み終わってからボタンを離してください。

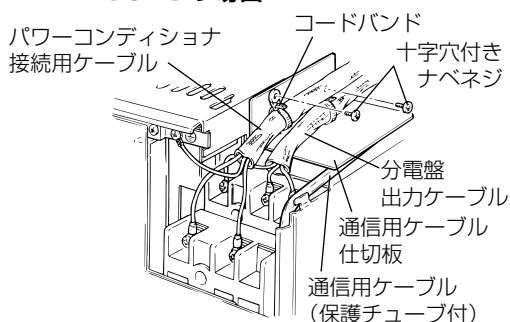
ご注意

- 各ケーブルの差し込み状態を確認してください。差し込みが不十分の場合通信異常発生の原因になります。

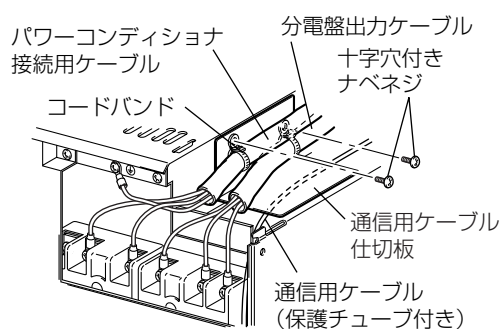


12.三菱電機PV-PN40G、PV-PN55G以外の パワーコンディショナへの接続 つづき

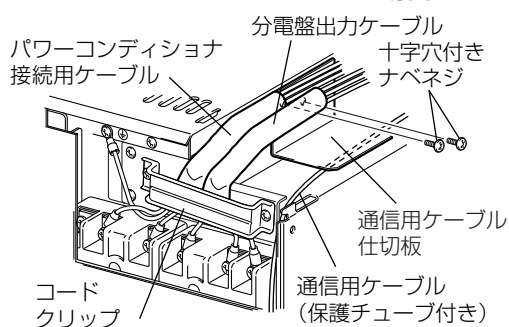
A PV-PN04B2、PV-PN04B3、 PV-PN05B、PV-PN05B3、 PV-PN06B3の場合



B PV-PN03D、PV-PN04Dの場合



C PV-PN03F、PV-PN04F、 PV-PN05F、PV-PN06F、PV-PN30G、 PV-PN33G、PV-PN50Gの場合



3 通信用ケーブル仕切板を取付ける

■ 図Aと図Bのパワーコンディショナの場合

- 接続箱の全ての太陽電池開閉器と、分電盤の太陽光発電用ブレーカーが「OFF」になっていることを確認してください。
 - パワーコンディショナのフロントパネルと配線カバー、コードクリップをはずしてください。
- 1) コードバンドを止めているネジ2本をはずす。
 - 2) 付属の通信用ケーブル仕切板で出力ケーブルと通信用ケーブルを分離する。
 - 製品外の通信用ケーブルと出力ケーブルとは30cm以上離して配線してください。
 - 3) はずしたネジまたは付属の十字穴付きナベネジ2本でコードバンドと通信用ケーブル仕切板を共締めする。
 - 4) 接続終了後、パワーコンディショナのフロントパネルと配線カバーを元通り取付ける。

■ 図Cのパワーコンディショナの場合

- 1) 付属の通信用ケーブル仕切板で出力ケーブルと通信用ケーブルを分離する。
 - 製品外の通信用ケーブルと出力ケーブルとは30cm以上離して配線してください。
- 2) はずしたネジまたは付属の十字穴付きナベネジ (4×8mm) 2本で仕切板を所定の位置に取付ける。
- 3) 接続終了後、パワーコンディショナのフロントパネルと配線カバーを元通り取付ける。

13. 適合パワーコンディショナの交換

- 送信ユニットに接続する適合パワーコンディショナを交換する場合は、分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「切」にして送信ユニットの電源を切ってから、パワーコンディショナに接続する通信線の差し換えを行ってください。
(送信ユニットの電源が入ったままの状態ではパワーコンディショナに接続する通信線の付け替えを行うと、正しい情報が取得できない原因になります)

14. 受信ユニットを壁掛けでご使用の場合

■ 設置前に下記の項目を確認してください。

- 設置位置で通信が可能か無線通信の確認を行ってください。
- テレビと受信ユニットをつなぐケーブルの長さを確認してから、スタンドの取付け位置を決定してください。
- 付属のS映像ケーブルの長さは2mです。
- 受信ユニットは電源に家庭用AC100Vコンセントを利用します。コンセントの差し込み口まで届くか確認してください。

P13

1 スタンドを付属の木ネジ (4.1 × 16 mm) 2本で平らな壁に水平に取付ける

- 市販のネジで壁に固定する場合は、壁材に合わせたネジをご使用ください。

ご注意 ● 石膏ボードなど壁材が弱い場合はボード用アンカーなどで補強してください。

2 受信ユニット背面のS映像出力に付属のS映像ケーブルを接続する

- S映像が利用できない場合は市販のビデオ映像ケーブルでも接続できます。(3m以内)

S映像の場合		ビデオ映像の場合	
プラグの形状	端子の形状	プラグの形状	端子の形状
			

■ ビデオ映像ケーブル (市販品) を使用する場合

- ビデオ映像出力にビデオ映像ケーブル (市販品) を接続してください。

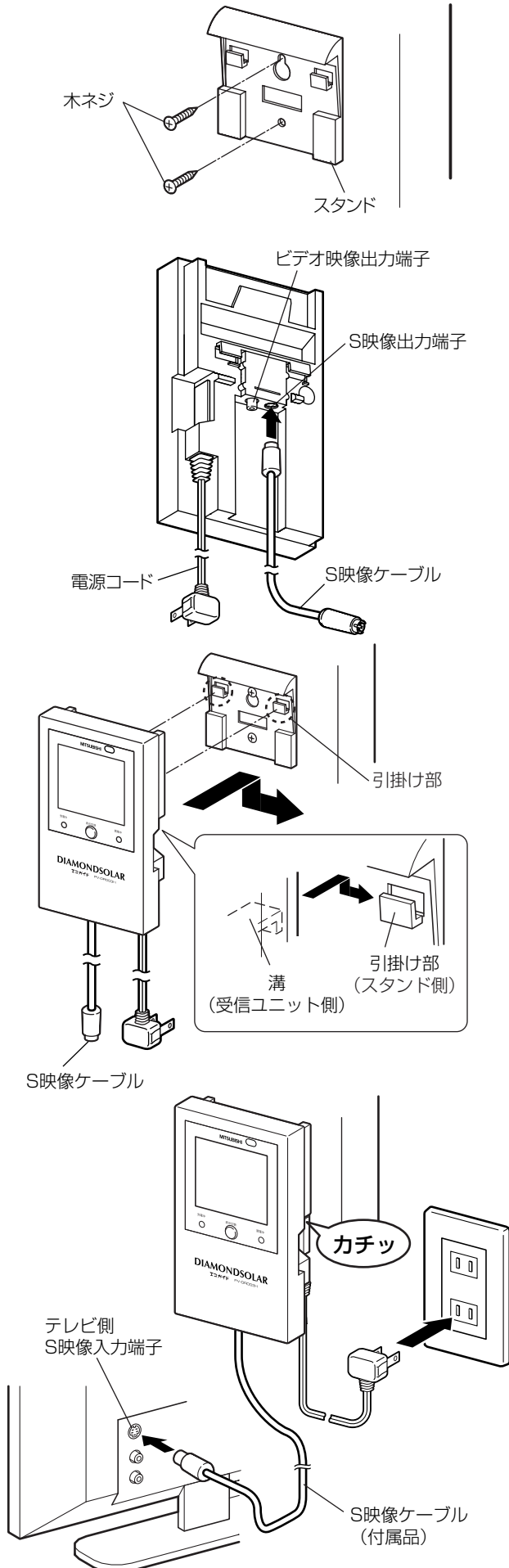
ご注意 ● S映像ケーブルとビデオ映像ケーブルの両方を接続しないでください。両方接続しますとテレビ画面が表示されません。

3 スタンドの引掛け部に受信ユニットを取付ける


- スタンドの引掛け部に受信ユニット背面の溝を合わせ、「カチッ」と音がするまでスライドさせてください。

4 S映像ケーブルの片方をテレビのS映像入力に、電源プラグをコンセントに差し込む

- S映像ケーブルの端子は方向があります。間違った方向で無理に差し込まないようにしてください。端子破損の原因になります。
- テレビ側の接続についてはテレビの取扱説明書をお読みください。




15. リモコンのテレビ操作の設定をメーカーに合わせて設定する

1 リモコンの  ^{テレビ電源} を先に押しながら、該当するメーカーのボタンを次に押し、両方とも離す

- 離す順番は前後しても問題ありません。

例：三菱に設定する場合

リモコンの  を先に押しながら

リモコンの  を次に押し、両方とも離す。

- 初期設定は「三菱」に設定されています。
- 正しくメーカー設定しても、テレビによっては正しく機能しない場合があります。この場合はテレビのリモコンでテレビの入力切替を行ってください。

● リモコン各ボタンとテレビメーカーの関係

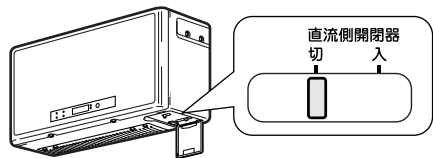
ボタン	テレビのメーカー
	MITSUBISHI (三菱)
	Pioneer (パイオニア)
	SONY (ソニー)
	HITACHI (日立)
	TOSHIBA (東芝)
  	SHARP (シャープ) ※
  	Panasonic (パナソニックまたは松下) ※
	Victor (ビクター)
 	SANYO (三洋) ※
	NEC
	AIWA (アイワ)
	FUNAI (フナイ)

※お使いのテレビによりいずれかに該当する場合があります。

16. 送信ユニット・受信ユニットの登録（ペアリング）手順

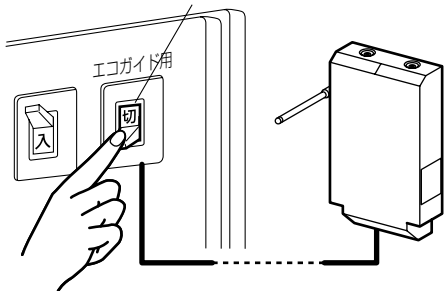
ご注意

- 送信ユニットと受信ユニットの間で無線通信できている場合、登録（ペアリング）の作業は不要です。
- 中継機と登録（ペアリング）を行った後に、中継機の台数を変更した場合は、再度送信ユニット・受信ユニットの登録（ペアリング）が必要です。

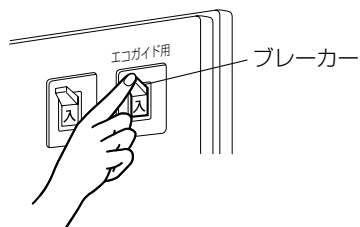
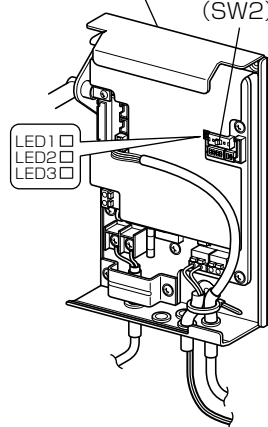
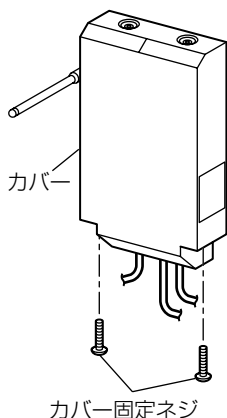


※図はPV-PN40Gの場合

ブレーカーを「切」にする

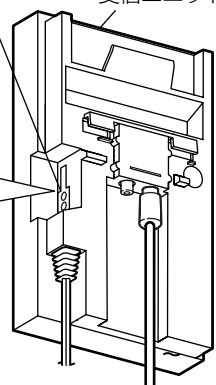
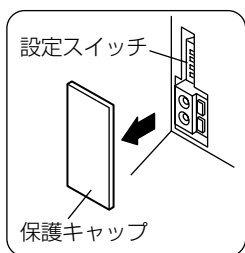


送信ユニット 設定スイッチ (SW2)



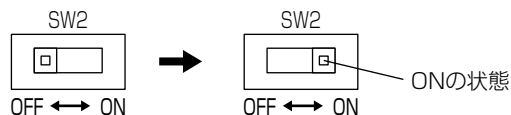
設定スイッチ

受信ユニット



登録（ペアリング）作業要領

- 1 パワーコンディショナの直流側開閉器を「切」にする
 - パワーコンディショナが消灯していることを確認してください。
- 2 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを「切」にする
- 3 送信ユニットのカバー固定ネジ2本をはずし、カバーをはずす
- 4 送信ユニットを登録モードで起動する
 - (1) 送信ユニットの設定スイッチ (SW2) をONにする
 - 送信ユニットの電源が入っている状態で設定スイッチを操作しても設定変更できません。



- (2) 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを入れて、送信ユニットの電源を入れる

ご注意

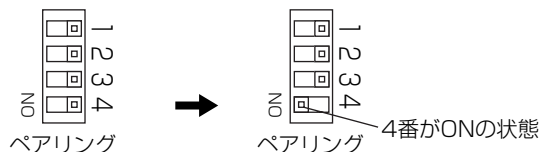
- 送信ユニットには、AC100Vが通電しています。送信ユニットの中の回路にはふれないでください。

- (3) 送信ユニットのLED1のみが点灯していることを確認する
 - LED1のみが点灯している場合、登録（ペアリング）の準備が完了したことを示しています。
 - LED1が消灯している場合、LED1以外が点灯している場合は、登録（ペアリング）作業を最初からやり直してください。

- 5 送信ユニット付近（2m以内）へ受信ユニットを移動させる

- 6 受信ユニットを登録モードで起動する

- (1) 受信ユニットの電源プラグをコンセントから抜き、側面にある保護キャップをはずして設定スイッチの4番をONにする
 - 受信ユニットの電源が切れていない状態で設定スイッチを操作しても設定変更できません。
 - 設定スイッチ4番以外のスイッチは変更しないでください。



16.送信ユニット・受信ユニットの登録（ペアリング）手順 つづき

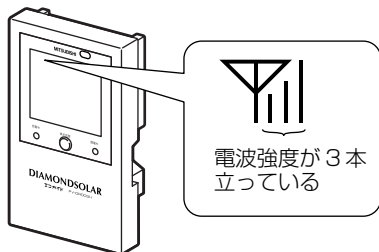
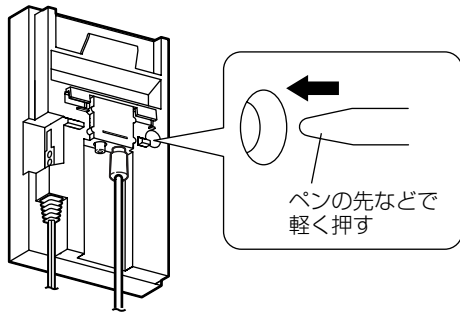


- (2) 受信ユニットの電源プラグをコンセントに差し込む。
- (3) 受信ユニットの液晶画面が左記のように全て点灯した状態になったことを確認する

7 受信ユニットと送信ユニットを登録する

- (1) 受信ユニットの背面にあるスイッチを細い棒などで押す
 - スイッチが押されると「ピッ」と音になります。

ご注意 ●手順6 (2) から手順7 (1) までの作業は1分以内に行ってください。1分を超えた場合は手順6 (1) から作業をやりなおしてください。



- (2) 受信ユニットの液晶画面に左図のようなアンテナマークが点灯していることを確認する

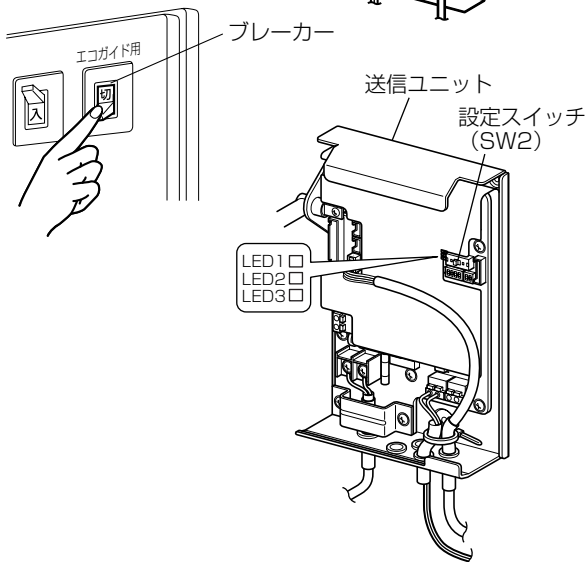
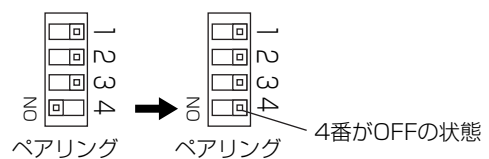
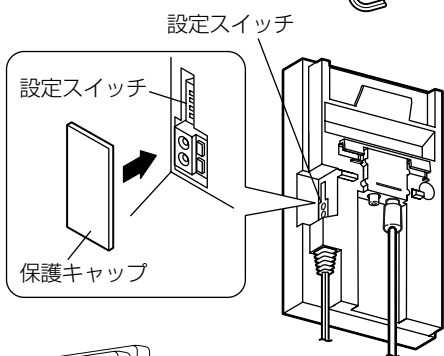
●アンテナマーク以外は全て消灯します。

左図のような状態にならない場合、受信ユニットの電源プラグをコンセントからいったん抜いて、10秒経過後に再度操作をやり直してください。

※送信ユニットのLED1、LED2、LED3は全て消灯します。

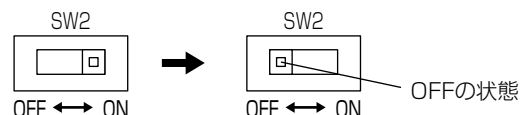
8 受信ユニットを通常モードへ戻す

- (1) 受信ユニットの電源プラグをコンセントから抜き、電源を切る
- (2) 受信ユニットの側面にある設定スイッチの4番をOFFにして、保護キャップを元通り取付ける



9 送信ユニットを通常モードへ戻す

- (1) 分電盤内のエコガイド用ブレーカーを切る
- (2) 送信ユニットの設定スイッチ (SW2) をOFFに(元通り)する
 - 送信ユニットの電源が切れていない状態で設定スイッチ (SW2) を操作しても設定変更できません。エコガイド用ブレーカーを「切」にしてから操作してください。

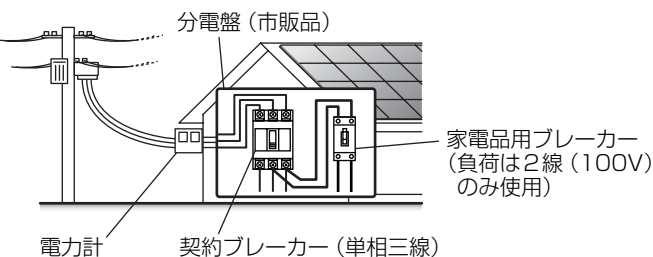


- (3) 送信ユニットのカバーを元通りに取付けてカバー固定ネジ2本を締め付ける

17. 主電源用漏電ブレーカーの使用負荷が2線(100V)のみの場合

■単相三線におけるL1またはL2のいずれか1本とNの2本の電線が引き込みの場合の作業手順

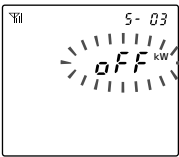
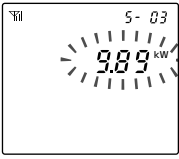
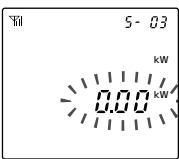
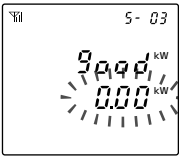
引き込みは、単相三線式で分電盤までできているが、使用負荷が2線(100V)のみの場合は電力計測用電流センサー(別売)2個のチェックができませんので、下記方法にて、電力計測用電流センサーを検出後(図1参照)、一方の電圧側線に電力計測用電流センサーを取付け直してください。(図2参照)



- (1) 屋内分電盤内部の単相二線の主幹ブレーカー一次側の配線色、線径を確認する。
- (2) 電力量計に最も近い単相三線ブレーカー(エコガイドTVの電力計測用電流センサーを取付ける部分)の配線のうち、単相二線が接続されている電線を確認する。
- (3) 単相二線が接続されている電線のL側へエコガイドTVの電力計測用電流センサー2個をリード線が出ている面が系統電源側に向くように取付ける。(図1, 図3参照)
- (4) 据付工事説明書P15の「■エコガイドTVの設定の準備」を実施する。
※ただし、手順2において、「IHクッキングヒーターなど200V仕様の機器」の代わりにヘアードライヤーなどの消費電力の大きな機器(消費電力130W以上)を動作させる。
- (5) 据付工事説明書P15の「■送信ユニットを設定モードで起動する」を実施する。
- (6) 据付工事説明書P16、P17の「■エコガイドTVを設定する」の手順1,2,3を実施する。

手順3において次の各表示が出た場合は「表示の意味」と「確認事項」に記述の内容を確認してください。

表2

受信ユニット液晶表示	表示の意味	確認事項
一段目に OFF の点滅表示 	パワーコンディショナと送信ユニットが通信していません。	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーコンディショナの通信線が送信ユニットと正しく結線されているか確認してください。 ●パワーコンディショナの直流側開閉器が「入」であるか確認してください。 ●接続箱内のブレーカーは「ON」であるか確認してください。
一段目に数値が点滅している 	パワーコンディショナが連系運転をしています。	パワーコンディショナの運転切換スイッチが停止の位置にあるか確認してください。 ※パワーコンディショナが2台~4台接続されている場合は、すべてのパワーコンディショナの運転切換スイッチを「停止」にしてください。
一段目に表示無し、かつ二段目に 0.00 が点滅している 	電力計測用電流センサーが2個とも方向判定を完了していません。	電力計測用電流センサーの取付け位置が正しいか、また消費電力が十分かを確認してください。
一段目のみ Good が表示されていて、かつ二段目に 0.00 が点滅している 	どちらか1個の電力計測用電流センサーの方向判定が完了していません。	電力計測用電流センサーの取付け位置が正しいか、また消費電力が十分かを確認してください。

17.主電源用漏電ブレーカーの使用負荷が2線(100V)のみの場合 つづき

- (7) 据付工事説明書 P17 の「**■エコガイドTV を設定する**」の手順 4 を実施する。
 ※ただし、「IH クッキングヒーターなどの 200V 仕様の機器」の代わりにヘアードライヤーなどの機器を停止する。
 ※ヘアードライヤーなどの機器を停止する前は受信ユニットの表示部の消費電力はヘアードライヤーの消費電力の 2 倍以上となります。(図 1 の通り電力計測用電流センサー 2 個で検出のため)
- (8) 据付工事説明書 P18、P19 「**■エコガイドTV を設定する**」の手順 5,6,7,8,9,10 を実施する。
- (9) 電力計測用電流センサーの 2 個のうち、1 個の電力計測用電流センサーを取りはずし、リード線が出ていない面が系統電源側に向くように変更して、もう一方の電圧側線へ取付ける。(図 2, 図 3 参照)
- (10) 据付工事説明書 P20 の「**■送信ユニットを通常モードに戻す**」と「**■受信ユニットを通常モードに戻す**」を実施する。
- (11) 適合パワーコンディショナの運転切換スイッチを「連系運転」として、パワーコンディショナを連系運転させて、受信ユニットの表示部の発電電力の数値が増える事と消費電力に大きな変動が無い事を確認する。(図 2 の通り、一方の電力計測用電流センサーの向きを反転した取付けを確認)
- (12) 以降は据付工事説明書 P23 「7. 据付工事後の確認」に従う。

図1：電力計測用電流センサー2個へ買電電力を検出させる

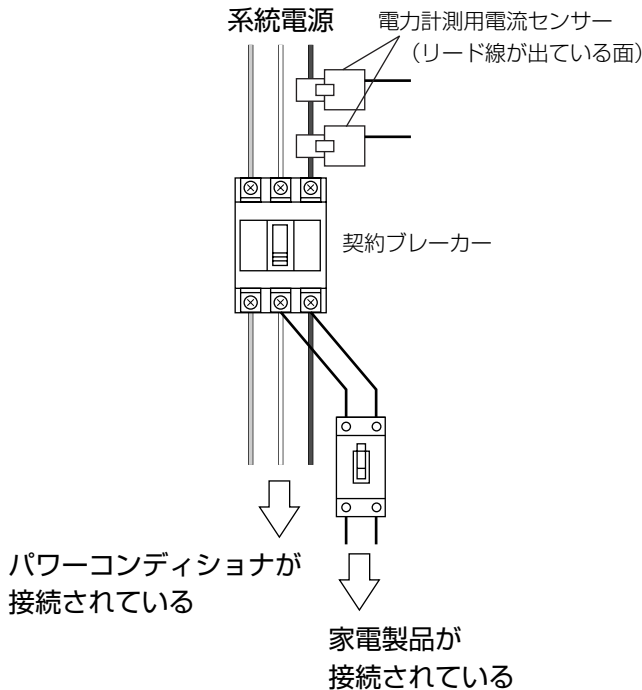


図2：一方の電力計測用電流センサーを取付け直す

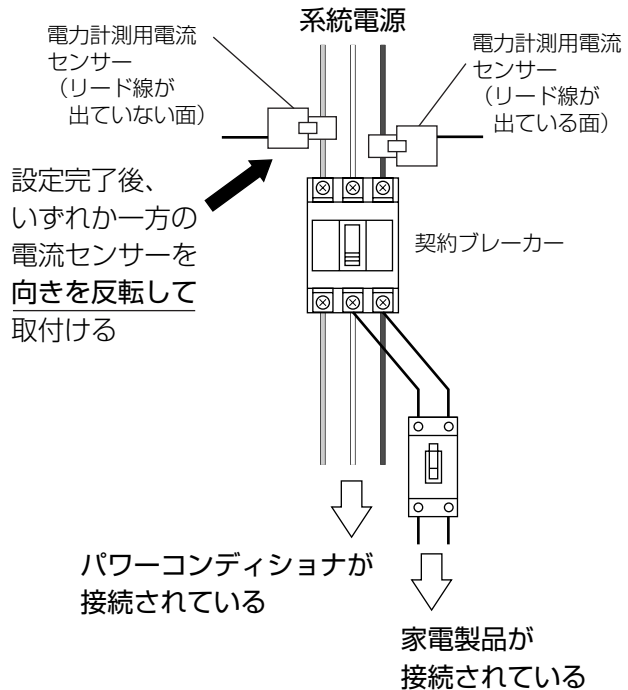
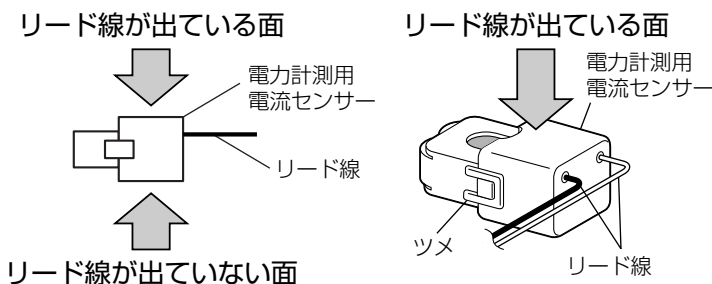


図3



18. 故障かな？と思ったら

症状	原因・処置		
発電電力の数値部分に「OFF」が表示され点滅している 消費電力の数値部分に「0.00」が表示され点滅している 「Good」が表示されない	エコガイドTVの設定が完了していない。	配線とスイッチの設定に間違いがないか確認してください。 P7 エコガイドTVの設定をやり直してください。 P15~20	
Good 「Good」が表示され Good つづける		送信ユニットと受信ユニットのリセットが完了していません。	送信ユニットと受信ユニットをリセットしてください。 P20
テレビ画面が全く表示されない		テレビと受信ユニットが正しく接続されていない。	接続を確認してください。 P21
	テレビの外部入力が合っていない。	受信ユニットと接続されているテレビの外部入力が切替えてください。	
	受信ユニットの電源が入っていない。	電源プラグをコンセントに接続してください。	
	S映像ケーブルとビデオ映像ケーブルが両方接続されている。	どちらかのケーブルを選択し、不要なケーブルを外してください。 P21	
リモコンに反応しない	テレビに向けて操作している	受信ユニットの受光部にリモコンを向けて操作してください。	
	電池が正しく挿入されていない。	初めてリモコンを使うときは、絶縁している絶縁帯を抜いてください。 P22	
	リモコン受光部に直射日光や強い照明などが当たっている。	直射日光や強い照明などが当たらない場所でお使いください。	
	リモコンガイド以外のボタンを押している。	テレビ画面下部に表示されるリモコンガイドに沿ってリモコンのボタンを押してください。	
	受信ユニットの信号受信範囲外から操作している。	リモコン受信の範囲内でリモコンをお使いください。 P22	
	テレビの電源、入力切替えができない。	テレビに向けてリモコンを操作してください。	
	受信ユニットの液晶表示部の画面表示が変わらない。	受信ユニットに向けてリモコンを操作してください。 P22	
表示の数値が数秒ごとに変わる	機器が電力を定期的に確認しています。	送信ユニットが数秒ごとに発電電力量と消費電力量を確認し、受信ユニットにデータを送信しています。	
受信ユニットがスタンドからずれる	正しく取付けされていない。	スタンドに「カチッ」というまでしっかり固定してください。 P14 P30	
テレビにS映像入力がない	ビデオ映像ケーブル（市販品）でもテレビと接続できます。（3m以内）	付属のS映像ケーブル以外に、市販のビデオ映像ケーブル（市販品）でもテレビと接続できます。（3m以内） P21	
テレビ表示画面が白黒	S映像ケーブルとビデオ映像ケーブルが両方接続されている。	どちらかのケーブルを選択し、不要なケーブルをはずしてください。	
		S映像ケーブルの接続不良です。接続しなおしてください。	

18.故障かな?と思ったら つづき

症状	原因・処置	
消費電力の数値がおかしい	電力計測用電流センサーが付いていない。	電力計測用電流センサーのクランプがしっかりとロックされているか確認してください。
	電力計測用電流センサーの取付け位置が間違っている。	主電源用漏電ブレーカー、太陽光発電用ブレーカーよりも1次側に取付けられているか確認する。 P11
	パワーコンディショナとの通信ができていない。	パワーコンディショナ通信用ケーブルの接続を確認してください。 P8
	電力計測用電流センサーの設定が誤っている。 電力計測用電流センサーを外したことがある。	エコガイドTVの設定を行ってください。 P15~20
	電線が太くて電力計測用電流センサーのロックができていない。	別売りの部材をお買い求めください。 P4
	他社発電機を使用している。	別売り部材の発電電力計測用電流センサー（PV-DC01）を設置してください。 P27
送信ユニット、受信ユニット間で無線通信ができていない（電波が弱い）	ユニットバス上や天井裏などの密閉された場所に送信ユニットが設置されている。 近くで電波に影響する機器が動いている。	無線の電波は、電子レンジなどの電磁波に影響を受ける場合があります。また、壁や扉の材質により電波が弱まる場合があります。安定した通信ができる場所に送信ユニットまたは受信ユニットを移動してください。
	送信ユニットと受信ユニットの登録（ペアリング）データが合っていない。	登録（ペアリング）手順を実施してください。 P33
移設後や屋内配置変更後に通信が途切れる、または通信できない	通信する電波強度が不安定、または不十分になっている。	機器間の障害物を取り除くか、距離が離れすぎているか（10m未満）確認してください。 ※必要に応じて中継機を追加してください。
送信ユニット、受信ユニット間で有線通信ができていない	通信用ケーブルが接続されていない。	送信ユニットと受信ユニット間の通信用ケーブルの接続を確認してください。 P25
	送信ユニットのスイッチが設定されていない。	分電盤のエコガイド用ブレーカーを切った後に設定スイッチSW1の2番をONにし、分電盤のエコガイド用ブレーカーを入れ直してください。 P25
通信が途切れる 通信ができない	距離が離れすぎている。 機器間に障害物が存在している。	機器間の障害物を取り除くか、距離が離れすぎているか（10m未満）確認してください。 ※必要に応じて中継機を追加してください。
	PV-PS02EまたはPV-PS18G、PV-PS18GAのリモコンと送信ユニットの接続にエコガイド通信専用コードを使用せず、パワーコンディショナとリモコン間の通信ケーブルから分岐している。	PV-PS02EまたはPV-PS18G、PV-PS18GAに付属のエコガイド通信専用コードを使用してください。 P29
受信ユニット表示部が何も表示しない	受信ユニット側面の設定スイッチが全部ON（前面側）になっている。	受信ユニットの設定スイッチをすべてOFF（背面側）に設定して、受信ユニットの電源プラグを入れ直してください。

症 状	原因・処置	
発電電力がゼロから変化しない	送信ユニットの速結端子にパワーコンディショナ通信用ケーブルが正しく接続されていない。	パワーコンディショナ通信用ケーブルの接続を確認してください。 P8
	パワーコンディショナ通信用ケーブルが断線している。	
	パワーコンディショナのパワーモニター用端子に通信用ケーブルが正しく接続されていない。	送信ユニットの設定スイッチ (SW3) の設定を確認した後、エコガイドTVの設定をやり直してください。 P3 P27
	送信ユニットの設定スイッチ (SW3) の設定が誤っている。	

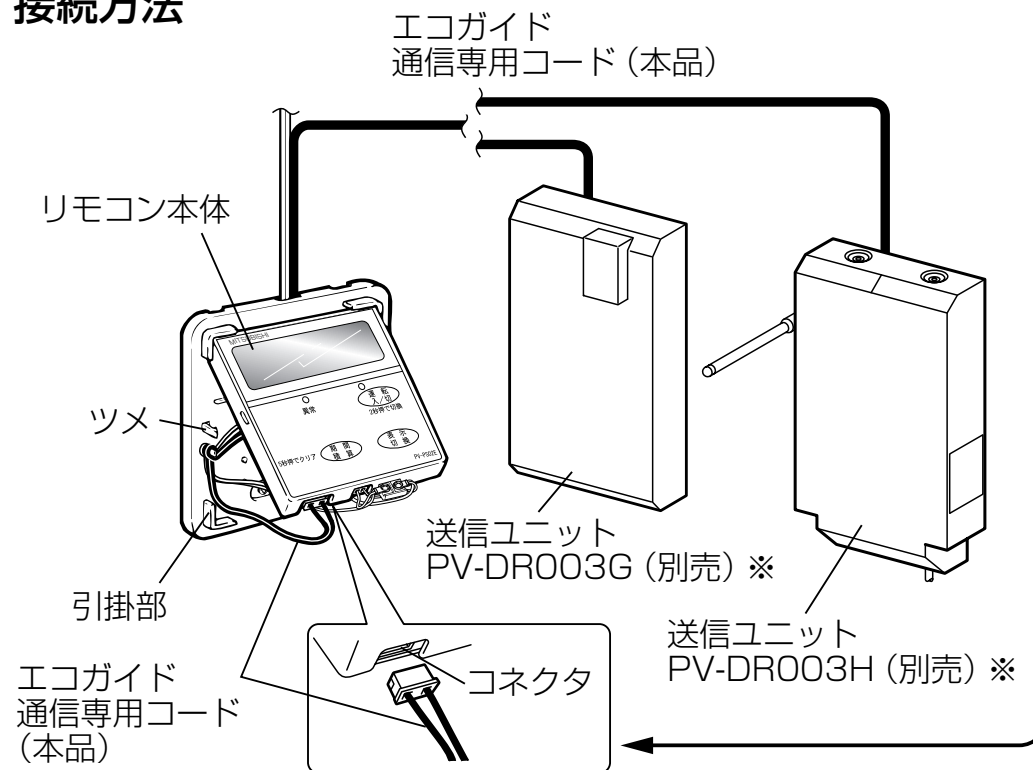
エコガイド 接続説明書

エコガイドを接続するには右のエコガイド通信専用コードを使用します。

(エコガイドを使用しない場合は必要ありませんが、後から取り付ける場合に備えて大切に保管してください)

エコガイドを接続する場合は下記の接続方法に従い作業してください。

接続方法




エコガイド通信専用コード





別売のエコガイド PV-DR003G 又は PV-DR003H を接続する場合のみ使用します

- ① リモコン本体のコネクタに付属のエコガイド通信専用コードを接続する。
 - ② エコガイド通信専用コードをリモコン本体裏側にまわす。
 - ③ エコガイド通信専用コードをエコガイドへ接続する。
(エコガイドの取付工事説明書を参照してください。)
市販の通信線 (PVC 線 2 芯単線 $\phi 0.65 \sim \phi 1.2 \text{ mm}$ または、より線 $0.3 \sim 1.25 \text{ mm}^2$) で延長してください。
すべての通信線の合計が 50m まで延長可能です。
- 商品の形名は、一部仕様の見直しにより、変更することがありますのでご了承ください。
- ※ リモコン 1 台に対して送信ユニット一台を接続することができます。

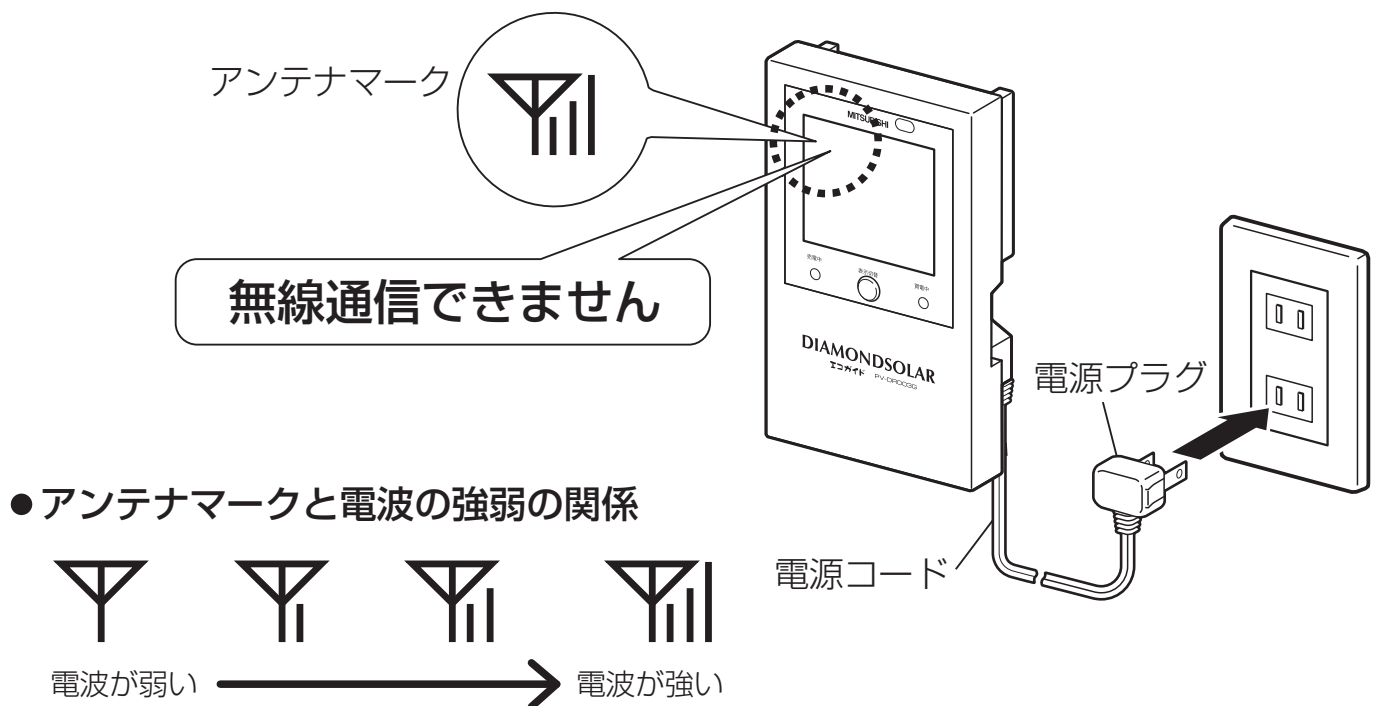
ご注意

無線通信の確認を必ず行ってください

受信ユニットの設置前に、無線通信の確認（据付工事説明書 12 ページ参照）を実施してください。無線通信ができると電波を示すアンテナマーク（）が表示されます。

受信ユニットの設置方向等を変更しても、受信ユニットのアンテナマーク表示が  または  とならない場合、表示部に「無線通信できません」と表示された場合は、以下を行って、アンテナマーク表示が  または  となることを確認のうえご使用ください。

- (1) 据付場所を変更
- (2) 有線接続（据付工事説明書 22 ページ参照）に変更
- (3) 別売の中継機（PV-DRT02）の設置



〈無線通信の目安〉

受信ユニットと送信ユニット間の無線通信は、障害物のない見通しのよい場所で正面を向き合わせたとき約 10m 届きますが、両ユニットの設置位置関係、壁や扉などの材質や枚数によって通信距離が極端に短くなることがあります。

ご注意

1. 電流センサーの取付位置に注意してください

- (1) L1 及び L2 の電線に取付ける。
- (2) 契約ブレーカーの一次側（契約ブレーカーが無い場合は、主電源用漏電ブレーカーの一次側）に取付ける。

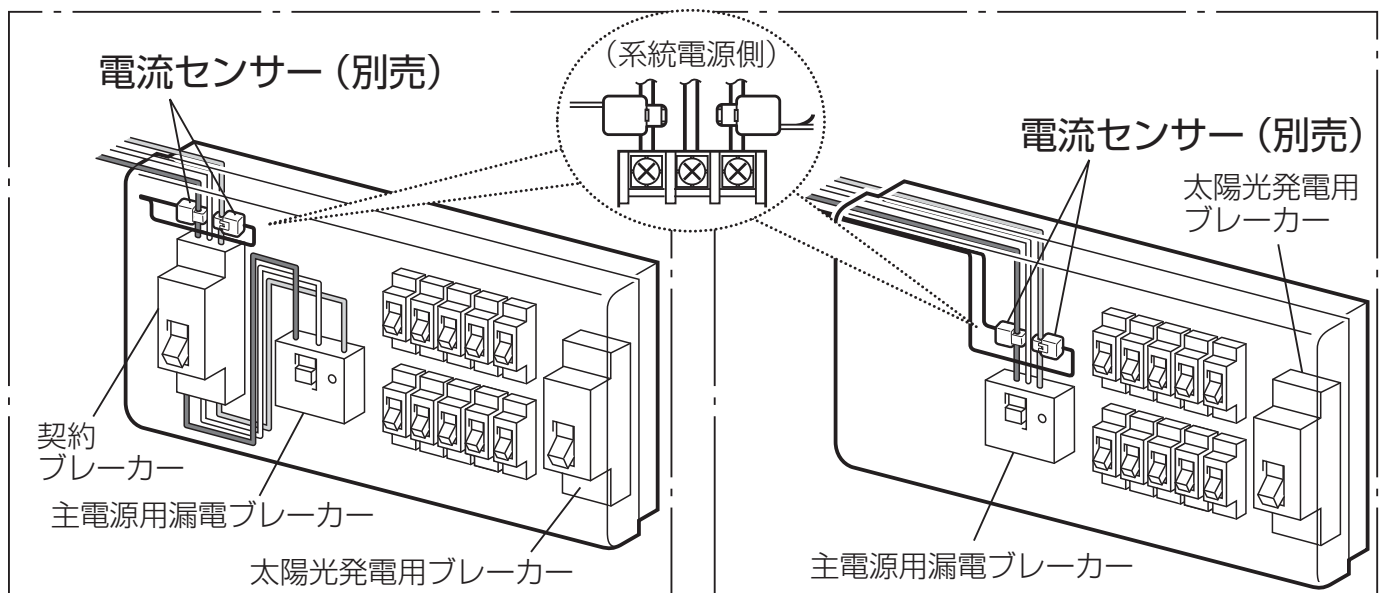
（下図の取付位置 A または取付位置 B に取付けます）

取付位置 A

契約ブレーカーがある分電盤へ電流センサーを取付ける場合。

取付位置 B

契約ブレーカーが無い分電盤へ電流センサーを取付ける場合。



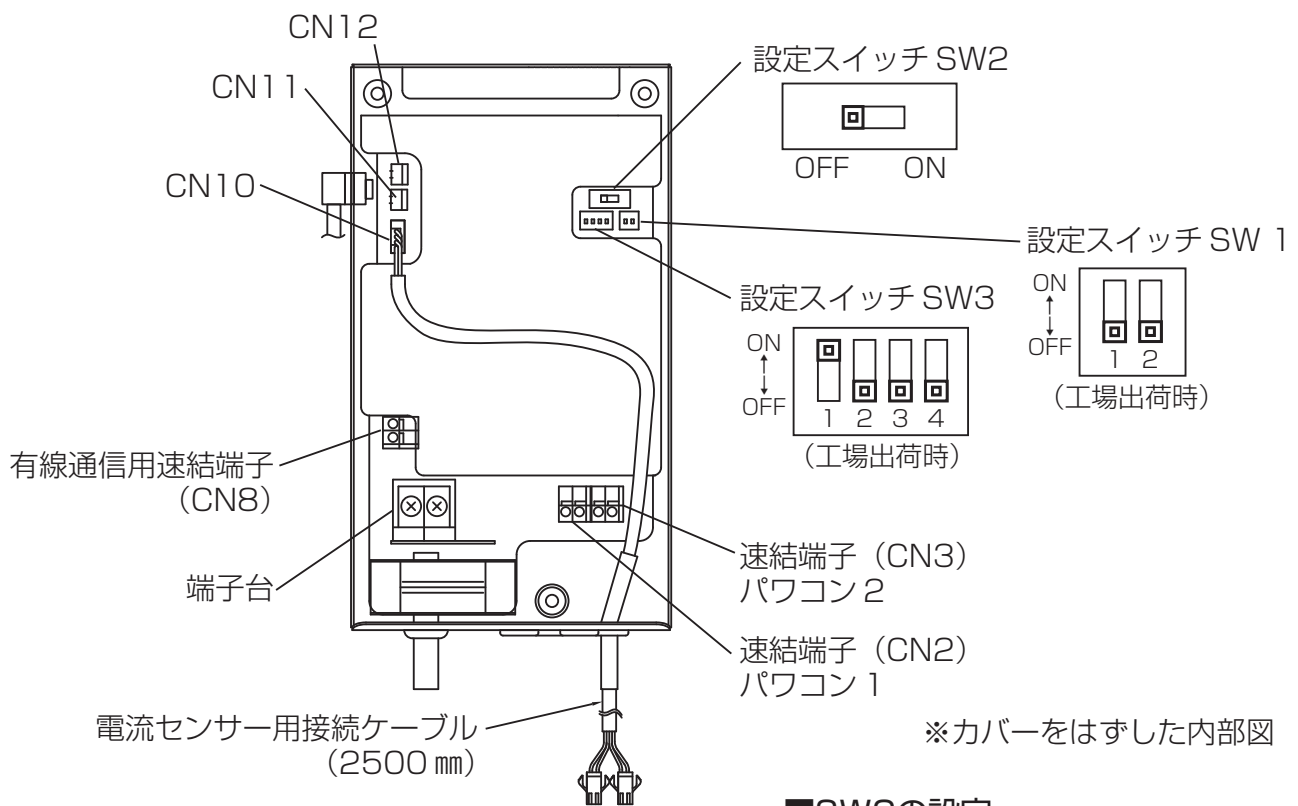
次の手順で運転を開始してください。

1. パワーコンディショナの運転切替スイッチを「停止」にする。
2. 受信ユニットの電源プラグを抜いて電源を切る。
3. 分電盤内の「エコガイド」用ブレーカーを切る
4. パワーコンディショナの直流側開閉器を「入」にする。
パワーコンディショナの表示部に「—」と表示されていることを確認する。
5. IH 調理器等の 200V の電気製品を運転させる。
6. 分電盤内の「エコガイド」用ブレーカーを入れる。

裏面もお読みください

2. 送信ユニットの設定を行ってください

設定スイッチは工場出荷時には下記の状態になっています。ご使用状況に併せて設定スイッチの設定を行ってください。(パワーコンディショナの直流側開閉器と運転スイッチを切り、「エコガイド」用分岐ブレーカーを切ってから、設定変更を行ってください。)



■SW2の設定

常にOFFのままにしてください。

■SW3の設定

スイッチ1	常にON：パワコン1を接続する
スイッチ2	ON：パワコン2を接続する OFF：パワコン2を接続しない
スイッチ3	ON：CN11（他社発電機）にケーブルを接続する OFF：CN11にケーブルを接続しない
スイッチ4	ON：CN12（2台目の他社発電機）にケーブルを接続する OFF：CN12にケーブルを接続しない

■SW1（セッテイ）の設定

スイッチ1	常にOFFのままにしてください。
スイッチ2	ON：有線通信 OFF：無線通信

本製品の受信ユニットと送信ユニット間の無線通信は、障害物のない見通しのよい場所で正面を向き合わせたとき約 10m 届きますが、以下のような場合、安定した無線通信ができないことがあります。

〈安定した無線通信ができなくなる場合〉

(1) 設置位置関係

受信ユニットと送信ユニットの設置位置関係（障害物や設置方向）によっては、通信距離が極端に短くなる場合があります。

テレビ等が障害物となる場合があります。障害物がある場合は、障害物または本製品を、移動させたり向きを変えてください。

(2) 遮へい物

受信ユニットと送信ユニット間の壁や扉、棚、収納（内容物）などの遮へい物によっては、無線電波が妨害されたり弱められ、通信距離が極端に短くなる場合があります。

また、本製品にはカバーをかけないでください。

(3) 受信ユニットと送信ユニット間の移動

受信ユニットと送信ユニット間を人などが移動すると、電波の状態が一時的に悪くなる場合があります。

(4) 同じ周波数帯を使う機器の影響

本機は 2.4GHz 周波数帯での無線通信を行うため、同じ周波数帯を使う機器の電波の影響をうける場合があります。

(5) 電磁波の影響

受信ユニットや送信ユニットの近くで電波に干渉する機器（無線機器や電子レンジなど）を使用した場合、電磁波の影響をうける場合があります。

以上に注意しても良好な通信状態が得られない場合や、確実にデータ通信を行うためには、別売の中継機（PV-DRT02）の設置（5 台まで）または、有線通信ができます。

中継機の設置、または有線接続の施工については販売店または工事店にご相談ください。